

HP OpenView AssetCenter

ソフトウェアバージョン : 5.0

ポートフォリオ

ビルド番号 : 442



利用規約

保証

HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品またはサービスに付帯する明示的保証条項でのみ規定されます。

本規定のいかなる部分も、他の保証を構成すると解釈されるものではありません。

HPは本書の技術上または編集上の誤謬、欠落についての責任を負わないものとします。

本書に含まれる内容は、予告なく変更される場合があります。

限定保証条項

機密コンピュータソフトウェア。

所有、使用、コピーには、HPによる有効なライセンスが必要です。

FAR12.211および12.212準拠。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアマニュアル、技術データは、ベンダの標準商用ライセンスに基づき、米国政府にライセンス供与されています。

著作権

(c) Copyright 1994-2006 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

- Adobe®, Adobe Photoshop® and Acrobat® are trademarks of Adobe Systems Incorporated.
- Corel® and Corel logo® are trademarks or registered trademarks of Corel Corporation or Corel Corporation Limited.
- Java™ is a US trademark of Sun Microsystems, Inc.
- Linux is a U.S. registered trademark of Linus Torvalds
- Microsoft®, Windows®, Windows NT® and Windows® XP are U.S. registered trademarks of Microsoft Corporation.
- Oracle® is a registered US trademark of Oracle Corporation, Redwood City, California.
- UNIX® is a registered trademark of The Open Group.

目次

はじめに	9
ポートフォリオモジュールの対象ユーザ	9
ポートフォリオモジュールの使用目的	10
本マニュアルの使用方法	10
1. 概要	13
3つの管理タイプ	13
ポートフォリオ管理の主要テーブル	14
オーバーフローテーブル	16
ポートフォリオ品目の説明とトラッキング情報	19
属性：作成と動作オプション	21
モデル：ポートフォリオの構成	23
2. ポートフォリオ品目	25
属性	25
モデル	27
資産	29
ロット	33
トラッキングしないロット	37
資産に関する財務情報のトラッキング	39
ポートフォリオ品目の移動	43
資産を契約に関連付ける	46

在庫	48
3. ITポートフォリオ	53
コンピュータ	53
コンピュータの標準セット	56
コンピュータ間の接続	57
4. 電話機	65
電話機と機能	65
電話機の管理	66
5. 作業指示とプロジェクト	69
作業指示	69
プロジェクト	74
6. 調整項目	75
調整項目とターゲット項目	75
調整項目を使用する	77
フィールドを調整する - 例	79
7. 用語解説	85
ポートフォリオ品目	85
プロジェクト	90
インデックス	91

図の一覧表

1.1. ポートフォリオ - データモデル	16
1.2. オーバーフローテーブル - データモデル	19
5.1. 作業指示のライフサイクル	71

表の一覧表

2.1. 属性の例	26
5.1. 作業指示時のステータス	71

はじめに

ポートフォリオモジュールの対象ユーザ

ポートフォリオモジュールは、企業のあらゆる役職に関与します。
特に、以下のユーザがポートフォリオモジュールを利用します。

- ポートフォリオ管理者
- 在庫管理者
- AssetCenterの導入を担当する技術者
- 財務管理の責任者
- 購買の責任者
- セキュリティ担当者
- 総務部
- ケーブル責任者
- ネットワーク責任者
- 電話機器の管理責任者

ポートフォリオモジュールは、AssetCenterのその他のモジュールの中心です。本マニュアルは、AssetCenterの幅広いユーザに役立つこのモジュールの基本概念を説明しています。

ポートフォリオモジュールの使用目的

ポートフォリオモジュールでは、以下のタスクを実行できます。

- 以下の情報を指定してポートフォリオ品目の詳細情報を記録します。
 - 説明
 - 使用者と責任者
 - 設置場所
 - コストセンタ
- 以下の方法で、ポートフォリオ品目を正確にトラッキングします。
 - 個別管理
 - 一括管理
 - 非個別管理

上記のタスクを実行することにより、以下のことが可能になります。

- 各ポートフォリオ品目（任意管理項目、場所など）を指定する。
- 必要に応じて各ポートフォリオ品目をトラッキングする。
- ポートフォリオ品目を適切な管理モードで管理する。
- ポートフォリオ品目に対して作業指示を容易に実行する。
- ポートフォリオ品目の使用を要するプロジェクトを作成する。

本マニュアルの使用方法

「概要」の章

この章では、AssetCenterによって提案される各種ポートフォリオ管理スタイルを説明し、ポートフォリオを構成するために入力する必要があるテーブルについて解説します。

この章は、AssetCenterの概要を把握するためにご利用ください。

「ポートフォリオ品目」の章

この章では、ポートフォリオ品目の管理手順を説明します。

ポートフォリオモジュールの使用に慣れるために便利な章です。

「ITポートフォリオ」の章

この章では、ポートフォリオモジュールを使ってコンピュータポートフォリオを使用する方法を説明します。

コンピュータ、標準セット、およびコンピュータ間の接続の管理の仕方を把握できます。

また、コンピュータの自動棚卸についても説明されています。

「電話機」の章

この章では、ポートフォリオモジュールを使って電話機を使用する方法を説明します。

この章を読んで、電話機を管理し、電話機のボタンに機能を割り当てる方法を習得してください。

「作業指示とプロジェクト」の章

この章では、ポートフォリオ品目に対して行われる作業指示を管理し、ポートフォリオ品目をプロジェクトに関連付ける方法を説明します。

「調整項目」の章

この章では、レコードのフィールドを調整する方法を説明します。

調整項目を使用する方法を説明するための、具体的なシナリオ例も記述されています。

「用語解説」の章

この章では、ポートフォリオモジュールに専用の主要用語を説明します。用語集では、ポートフォリオモジュールで使われる主要用語が説明されています。

各用語の定義を正確に把握してください。

1 概要

AssetCenterは、企業のポートフォリオを構成する様々な品目の管理を可能にします。ポートフォリオ品目には、有形の品目（コンピュータ、工作機械、消耗品、サプライ品など）や無形の品目（ソフトウェアのインストールなど）があります。

AssetCenterでは、ポートフォリオ品目に関連する情報をそのライフサイクルを通じてトラッキングすることができます。最適な管理タイプを適用することで、高価値なポートフォリオ品目と低価値なポートフォリオ品目を区別しつつ管理することが可能です。

3つの管理タイプ

AssetCenterでは、ポートフォリオ品目の価値に応じて以下の管理タイプを選択できます。

- 個別管理（資産別）
- 一括管理（ロット別）
- 非個別管理（トラッキングしないロット別）

上記の3つの管理タイプの相違点は、トラッキングのレベルの違いに起因します。ポートフォリオ品目が[資産]テーブルに登録されているかどうかに応じて、このポートフォリオ品目がトラッキングされるかどうかが決まります。[資産]テーブルの各レコードは、財務、技術、契約といった多岐にわたる情報を含んでいます。[資産]テーブルに登録されない品目に対しては、「トラッキングしないポートフォリオ品目」という概念を適用します。

AssetCenterでは、ポートフォリオ品目の管理レベルを上げることもできます。例えば、「トラッキングしないロット」を「トラッキングするロット」に変更できます。この結果、対応するレコードが[資産]テーブルに作成されます。

個別管理（資産別）

高価値のポートフォリオ品目は「資産」にあたります。AssetCenterでは、資産は個別にトラッキングされます。例えば、資産「サーバ」には設置場所、責任者、購入価格、減価償却方法といった多岐にわたる情報が含まれています。これらの情報はこのサーバに固有の情報であり、いつでも容易にアクセスできます。理論的に、AssetCenterにおける「資産」は、[ポートフォリオ品目]テーブルの1レコードに対応し、このレコードは[資産]テーブルの1レコードにリンクされています。

一括管理（ロット別）

個別に管理する資産ほど高価値ではない品目は、ロット単位でトラッキングできます。ロットの場合、ロットの各要素をトラッキングするのではなく、ロット全体に関するトラッキング情報が資産テーブルに記録されます。ロット単位の管理では、購入価格などのトラッキング情報の重複を避けることができます。理論的に、AssetCenterにおける「ロット」は、[資産]テーブルの1レコードに対応します。ただし、1つのロットが[ポートフォリオ品目]テーブルの複数のレコードに対応する場合があります。例えば、1ロットを複数のロットに分割し、複数の部署で使用する場合などです。

非個別管理（トラッキングしないロット別）

低価値のポートフォリオ品目（消耗品やサプライ品）は、「トラッキングしないロット」として管理されます。例えば、鉛筆やインクカートリッジなどがこれに当たります。トラッキングしないロットの場合、これに対応するレコードは[資産]テーブルに作成されません。大半の場合、トラッキングしないロットはリンクしている品目を経由して、間接的にトラッキングされます。トラッキングしないロットをトラッキングするロットに変更することは常時可能です。

ポートフォリオ管理の主要テーブル

ポートフォリオ管理の主要テーブルは以下のとおりです。

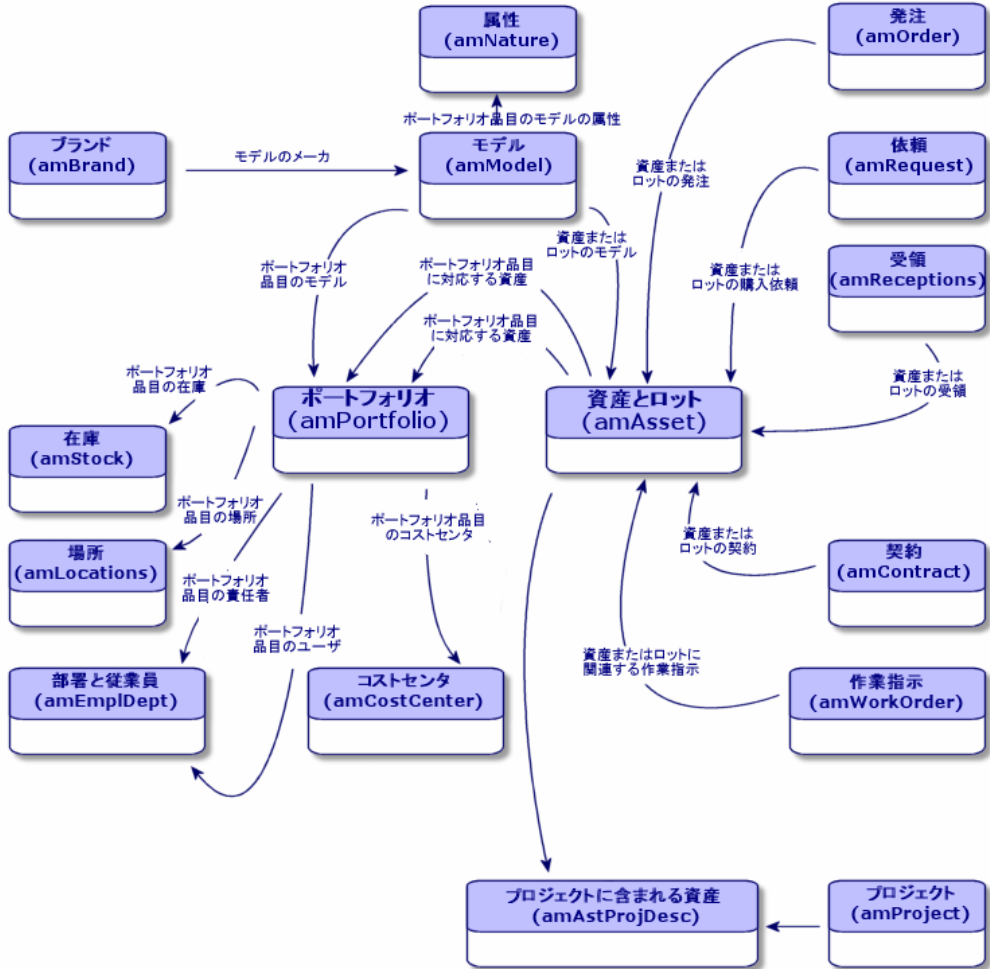
- [モデル] テーブル（SQL名：amModel）と[属性] テーブル（SQL名：amNature）

上記の2つのテーブルはポートフォリオ品目の作成の前提となるテーブルです。ポートフォリオ品目はモデルを基に作成され、モデルは属性を基に作成

されます。[モデル]テーブルを階層構造で構成することにより、ポートフォリオを構成することが可能になります(▶ポートフォリオ品目[献25])。

- [ポートフォリオ品目]テーブル(SQL名: amPortfolio)
ポートフォリオ品目はすべてこのテーブルに記録されています。
ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/ポートフォリオ品目]リンクをクリックして、ポートフォリオ品目のリストを表示します。
資産の詳細画面を使うと、ポートフォリオ品目の詳細情報にアクセスできます。
- [ポートフォリオ品目]テーブルは、ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を指定するために以下のテーブルにリンクされています。
 - [部署と従業員](SQL名: amEmplDept)テーブルは、ポートフォリオ品目の使用者および責任者に関する情報を含んでいます。
 - [場所](SQL名: amLocation)テーブルは、ポートフォリオ品目の設置場所に関する情報を含んでいます。
 - [コストセンタ](SQL名: amCostCenter)テーブルは、ポートフォリオ品目にリンクされている経費明細に関する情報を含んでいます。
- [資産]テーブル
ポートフォリオ品目が[資産]テーブルで参照されると、財務、技術、契約といった多岐にわたる関連詳細情報をトラッキングできます。これらの詳細情報は、資産テーブルにリンクしている複数のテーブルに記録されています。リンクするテーブルの例は、次のとおりです。
 - [契約](SQL名: amContract)テーブル
 - [作業指示](SQL名: amWOrder)テーブル
 - [プロジェクトに含まれる資産](SQL名: amAstProjDesc)テーブル
 - [依頼](SQL名: amRequest)テーブル
 - [発注](SQL名: amPOrder)テーブル
 - [受領明細](SQL名: amReceiptLine)テーブル

図 1.1. ポートフォリオ - データモデル



オーバーフローテーブル

ポートフォリオ品目の中には、特定のフィールドを必要とする品目があります。例えば、コンピュータをトラッキング、管理する場合、多数の情報を保存する必要があります。このような情報を記録するために多数のフィールドをポートフォリオ品目のテーブルに追加すると、以下の不利が生じます。

- AssetCenterのパフォーマンスが低下する。

- これらのフィールドは、大多数のポートフォリオ品目に不要である。

典型的には、専用テーブルを使用することが解決策として考えられます。例えば、コンピュータに対応するポートフォリオ品目はまず [ポートフォリオ品目] テーブルに登録され、次に [コンピュータ] テーブルに登録されます。ただし、この結果同期プロセスが大変複雑になり、以下の事項を常時確認する必要が生じます。

- コンピュータが [ポートフォリオ品目] テーブルと [コンピュータ] テーブルの両方に記録されている。
- コンピュータがポートフォリオから削除された場合、これがコンピュータテーブルにも反映される。
- その他。

この複雑な同期プロセスを避けるために、AssetCenterでは「オーバーフローテーブル」を使用します。ポートフォリオ品目のレコードに対して1つまたは複数のオーバーフローテーブルが指定されると、レコードが [ポートフォリオ品目] テーブルとオーバーフローテーブルの両方に同時に作成されます（例： [資産] テーブルと [コンピュータ] テーブル）。これらの2テーブルのうちの1つでレコードが作成または削除される度に、もう一方のテーブルにも変更が適用され、同期処理に要する時間が短縮されます。

オーバーフローテーブルを使用すると、AssetCenterに他のアプリケーションをさらに簡単に統合できます。例えば、AssetCenterが他のソフトウェア配布ツールと即時に統合され、この機能で必要なすべての情報が保存されます。この情報はすべて、コンピュータのオーバーフローテーブルに表示されます。

AssetCenterでは必要に応じて新たにオーバーフローテーブルを追加することができます。また、データベースを大幅に変更することなく、物理データモデルを拡張することが可能になります。

詳細については、マニュアル『管理』の「データベースの標準記述ファイル」の章を参照してください。

オーバーフローテーブルの概要

ポートフォリオ品目をオーバーフローテーブルに登録するには、このポートフォリオ品目のモデルの属性で、適切なアクションを指定する必要があります（▶属性の作成基準 [献 21]）。

使用可能なオーバーフローテーブル

AssetCenterでは、以下のオーバーフローテーブルが使用可能です。

- [資産] (SQL名: amAsset) テーブル
これはAssetCenterで最も大切なオーバーフローテーブルです。トラッキングしないロットに対応するポートフォリオ品目は、このテーブルに登録されません（▶トラッキングしないロット [献 37]）。



注意:

このテーブルに存在するオーバーフローリンク (PortfolioItems) は、ロットの作成のためのもので、外部キーを共有します。

このテーブルは、資産に関する詳細情報を記録します。

- 購入日
- ステータス
- 賃貸料
- 取得方法
- 固定資産の番号
- その他

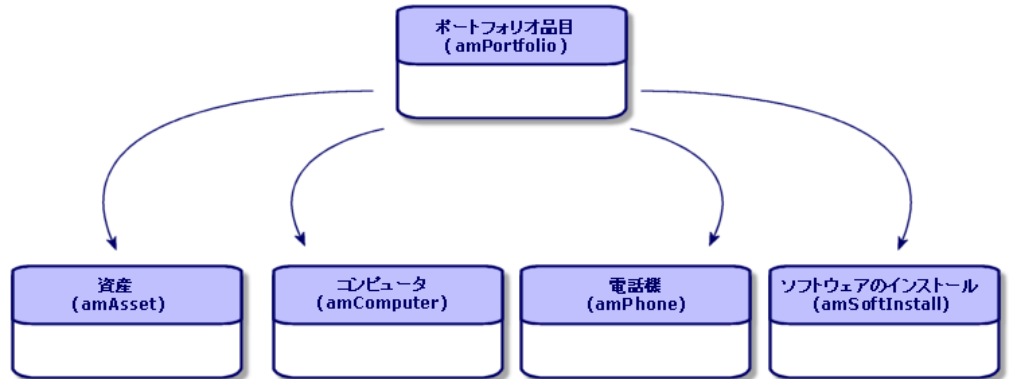
- [コンピュータ] (SQL名: amComputer) テーブル
このテーブルは、[資産] テーブルのオーバーフローテーブルです。コンピュータを作成すると、[ポートフォリオ品目] テーブル、[資産] テーブルおよび [コンピュータ] テーブルにレコードが作成されます。
特に、ソフトウェア配布ツールとの統合に関する情報を記録するのに使用します。
 - ソフトウェア配布識別子 (SWDID)

- [電話機] (SQL名: amPhone) テーブル
このテーブルは、[資産] テーブルのオーバーフローテーブルです。電話機を作成すると、[ポートフォリオ品目] テーブル、[資産] テーブルおよび [電話機] テーブルにレコードが作成されます。
テレフォニー資産に関する情報を記録します。
 - ボイスメール
 - 内線
 - 番号
 - その他

- [ソフトウェアのインストール] (SQL名: amSoftInstall) テーブル
[ソフトウェアのインストール] テーブルは、[ポートフォリオ品目] テーブルのオーバーフローテーブルです。ソフトウェアのインストールを作成すると、[ポートフォリオ品目] テーブルおよび [ソフトウェアのインストール] テーブルにレコードが作成されます。
[ソフトウェアのインストール] テーブルには、インストール済ソフトウェアに固有の以下の情報を保存します。
 - ライセンス番号
 - 認証
 - インストールの種類
 - ソフトウェアをインストールする度に消費されるポイント数 (「Microsoft Select」タイプのライセンスの場合)

- その他

図 1.2. オーバーフローテーブル-データモデル



ポートフォリオ品目の説明とトラッキング情報

AssetCenterでは、ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を指定し、トラッキングすることが可能です。

コンテキスト情報の指定

ポートフォリオ管理の主要目的の1つは、ポートフォリオ品目にそのコンテキスト情報を関連付けることです。ポートフォリオに含まれる品目数に関係なく、正確に各品目のコンテキスト情報を指定する必要があります。このため、AssetCenterは各ポートフォリオ品目またはロットに関する以下の情報を指定します。

- ポートフォリオにおけるステータス
 - 責任者と使用者
 - 設置場所
 - コストセンタ
 - リンクしているその他のポートフォリオ品目（関連資産、消耗品、用品）
- ポートフォリオ品目の設置場所を正確に把握すると、次のことが可能になります
- ポートフォリオ品目の移動を効率的にモニタする（例：複数のコンピュータを別の部署に割り当てる）。
 - 各部署のニーズを評価する（例：1部署につき必要なコピー機の台数を計算する）。
 - 新たに取得したコンピュータ機器を均等に割り当てる。
 - 割当済みのハードウェアの設置場所を即時確認する。
 - 1人の従業員に同じ資産を2つ割り当てることを避ける（例：複数のノートパソコンを使用するコンサルタント）。
 - ポートフォリオ品目にリンクしているコストセンタが再構成された場合、関連情報を適切に変更する。
 - その他。

トラッキング

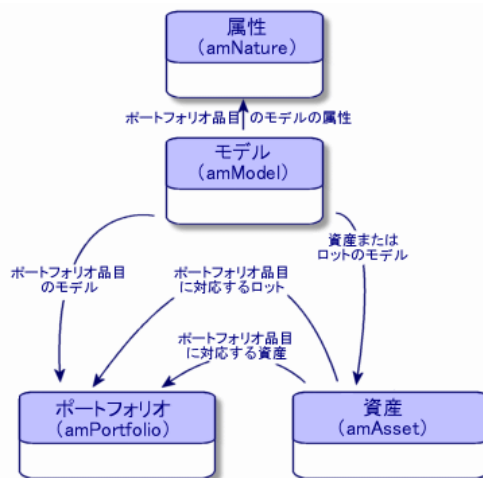
ポートフォリオ品目のトラッキングは必須です。AssetCenterでは、ポートフォリオ品目の個別またはロット別のトラッキングを選択できます。精密にトラッキングする必要がないと見なされるポートフォリオ品目（事務用品や消耗品）に対しては、非個別管理（トラッキングしないロット別）を適用します。この場合、コンテキスト情報のみが記録されます。

資産またはロットをトラッキングすると、次のことが可能になります。

- 資産またはロットを固定資産として管理する。
- 調達モジュールを使用する場合、リンクしている購入依頼、見積、発注および受領伝票に関する情報を得る。
- 関連経費を把握する。
- リンクしているプロジェクトや作業指示を把握する。
- 取得方法を確認する（購入、リース、ローン）。

属性：作成と動作オプション

ポートフォリオ品目を適切に構成するためには、まずモデルを最適な方法で構成する必要があります。モデルは属性を基にして作成されるため、モデルを作成する前に、属性を作成します。



モデルの属性では、モデルが継承する様々な基準を定義します。モデルを基にして、AssetCenterで管理されるポートフォリオ品目やその他の要素（契約、研修、作業指示、ケーブルなど）を作成します。

属性は、属性にリンクするモデルがどのテーブルにレコードを作成するかを指定します。例えば、属性「コンピュータ」は、[ポートフォリオ品目]テーブルにコンピュータを作成するのに必要なモデルを作成するために使われます。ポートフォリオ品目作成用の属性では、「管理条件」を第2の基準として指定する必要があります。

また、ポートフォリオ品目のモデル作成用の属性では、動作オプションを選択できます。例えば、属性[コンピュータ]で、動作オプション[接続可能]を選択すると、接続ポートに関連するタブページが使用可能になります。

属性の作成基準

属性の詳細画面で、この属性を基にするモデルがどのテーブルにレコードを作成するかを指定します。例えば、ポートフォリオ品目のモデルを作成するための属性や、契約のモデルを作成するための属性などがあります。

ポートフォリオ品目を作成するための属性に対しては、オーバーフローテーブル（[コンピュータ]テーブル、[ソフトウェアのインストール]テーブル、[電話機]テーブルなど）を指定できます。例えば、ある属性はポートフォリオ品目のモデルとコンピュータのモデルの作成に使用されると仮定します。この場合、この属性を基にしてポートフォリオ品目を作成すると、同時に[コンピュータ]テーブルにもレコードが作成されます（▶[コンピュータの属性を作成する](#) [献 53]）。

詳細については、マニュアル『管理』の「データベースの標準記述ファイル」の章を参照してください。

管理条件

管理条件を指定すると、ポートフォリオ品目の管理方法を定義できます。

ポートフォリオ品目の管理条件では、資産タグを使用するかどうかを指定します。資産タグの付いたポートフォリオ品目は、[ポートフォリオ品目]テーブルと[資産]テーブルに自動的に記録されます。以下の3種類の管理条件があります。

■ 固有資産タグ

固有資産タグが割り当てられているポートフォリオ品目は、個別にトラッキングされる資産に当たります。常時正確にトラッキングする必要のある高価値のポートフォリオ品目に対して、この制限条件を適用することをお勧めします（例：サーバ、工作機械、コピー機）。

■ 固有/共有資産タグ

同じ資産タグを共有するポートフォリオ品目の集まりは、「トラッキングするロット」と呼ばれ、ロット単位で管理されます。個別にトラッキングする必要のない同一のポートフォリオ品目を管理するために、この管理条件を使用することをお勧めします（例：椅子100脚のロット、安全ヘルメット20個のロット）。

■ 個別管理しない

ポートフォリオ品目の属性で「個別管理しない」を管理条件として選択すると、資産タグの有無を自由に管理できます。資産タグを持たないポートフォリオ品目は、精密なトラッキングを必要としないポートフォリオ品目です。このようなポートフォリオ品目は、「トラッキングしないロット」と呼ばれ、[資産]テーブルには記録されません。例えば、低価値の事務用品（鉛筆、消しゴム、クリップ）や、消耗品（消耗品のロットは、消耗品を消費するポートフォリオ品目経由でトラッキングされます）などにこの管理条件を適用します。

属性における動作オプション

品目の属性で1つまたは複数の動作オプションを選択することにより、それらの品目のテーブルで特定のフィールドおよびタブが使用できるかどうかが変わります。例えば、ポートフォリオ品目の属性で[ライセンス]を選択すると、[モデ

ル]テーブルに[ライセンス]タブが表示されます。AssetCenterでは以下の動作オプションが使用可能です。

- ソフトウェアをインストール
- 接続可能
- 消耗品
- ケーブルデバイス
- ライセンス

モデル：ポートフォリオの構成

ポートフォリオ品目のモデルを作成すると、このポートフォリオ品目の作成時に継承される様々な情報を指定することができます。例えば、名前、ブランド、コンピュータに特有の技術情報などです。

モデルは階層構造で構成されています。一般的なモデルを使って、具体的なモデルを統括します。各企業のポートフォリオの管理方法を反映した方法で、モデルを作成、分類しなければなりません。

2 ポートフォリオ品目

本章では、ポートフォリオ品目の管理方法について説明します。ここでは、次のテーブルのレコードの編集方法を扱います。

- [属性] (SQL名: amNature) テーブル
- [モデル] (SQL名: amModel) テーブル
- [ポートフォリオ品目] (SQL名: amPortfolio) テーブル
- [資産] (SQL名: amAsset) テーブル
- [コンピュータ] (SQL名: amComputer) テーブル
- [ソフトウェアのインストール] (SQL名: amSoftInstall) テーブル
- [電話機] (SQL名: amPhone) テーブル

属性

ポートフォリオ品目用のモデルを作成するためには、まず属性を定義する必要があります。属性ではポートフォリオ品目の管理条件を定義します。企業で適用するポートフォリオ品目の管理タイプの数と同じ数だけ属性を作成します。例えば、ソフトウェアを「資産」、「ロット」および「トラッキングしないロット」として管理する場合、「ソフトウェア」、「ソフトウェア(ロット)」、および「ソフトウェア(トラッキングしないロット)」という3つの属性を作成します。

属性のリストを表示するには、ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / 属性] リンクをクリックします。

ポートフォリオ品目の属性を作成する

ポートフォリオ品目のモデルの属性を作成するには、次の手順に従います。

- 1 属性を表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / 属性] リンク）。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 [名前] フィールドに入力します。
- 4 必要に応じて、[コード] フィールドの値を変更します。
デフォルトでは、[コード] フィールドには [名前] フィールドの値が入力されます。このフィールドには、レコードを個別に識別するためのコードを入力します。AssetCenterと他のデータベース間でデータをインポート / エクスポートする際に、このコードがレコードの照合更新キーとして使われます。
- 5 [作成] フィールドで [ポートフォリオ品目] を選択します。
- 6 電話機のモデルまたはコンピュータのモデル用の属性を作成する場合は、[オーバーフローテーブル] フィールドで [電話機] または [コンピュータ] を選択します。
- 7 管理条件を選択します。
- 8 必要に応じて、[動作] オプションを選択します。
- 9 [作成] をクリックして、作成を確定します。

属性の例

ポートフォリオ品目と同じ数だけ属性を作成することをお勧めします。以下の表は、様々な属性の例を示しています。

表 2.1. 属性の例

名前	オーバーフローテーブル	管理条件	動作オプション
全般			
資産	なし	固有資産タグ	オプションなし
ロット	なし	資産タグ	オプションなし
トラッキングしない ロット	なし	個別管理しない	オプションなし
消耗品	なし	個別管理しない	消耗品
原料	なし	資産タグ	オプションなし
IT			
コンピュータ	コンピュータ	固有資産タグ	<ul style="list-style-type: none">■ ソフトウェアをインストール■ 接続可能
コンピュータ（ロット）	なし	資産タグ	オプションなし

名前	オーバーフローテーブル	管理条件	動作オプション
ソフトウェアのインストール	ソフトウェアのインストール	固有資産タグ	オプションなし
ソフトウェアのインストール(ロット)	ソフトウェアのインストール	資産タグ	オプションなし
ソフトウェアのインストール(トラッキングしないロット)	ソフトウェアのインストール	個別管理しない	オプションなし
ライセンス	なし	固有資産タグ	<ul style="list-style-type: none"> ■ ライセンス
ライセンス(ロット)	なし	資産タグ	<ul style="list-style-type: none"> ■ ライセンス
ライセンス(トラッキングしないロット)	なし	個別管理しない	<ul style="list-style-type: none"> ■ ライセンス
コンピュータの標準セット	コンピュータ	資産タグ	<ul style="list-style-type: none"> ■ ソフトウェアをインストール ■ 接続可能
その他			
ケーブルデバイス	なし	固有資産タグ	<ul style="list-style-type: none"> ■ ケーブルデバイス
電話機	電話機	固有資産タグ	オプションなし

モデル

モデルは、ポートフォリオ品目を分類するために使用されます。モデルは、属性を基にして作成されます。必要に応じて、一般的なモデルまたはより具体的なモデルを作成します。

ソフトウェアのモデルを構成する場合の例

以下の例では、ソフトウェアのモデルを構成する方法を説明します。

- 1 ソフトウェアの全モデルは、ポートフォリオ品目を作成する属性を基に作成されています。ソフトウェアの管理方法に応じて、管理条件（個別管理、一括管理、非個別管理）を選択します。
- 2 一般的なモデル「ソフトウェア」モデルを作成します。
- 3 従属モデルを使って、用途別にソフトウェアを分類します（例：自動化ツール、ERP、プロジェクト管理など）。
- 4 従属モデル「自動化ツール」用に、特定のアプリケーションのモデルを作成します（例：ワードプロセッサ、スプレッドシート、DTP、ファイル管理など）。
- 5 モデルの階層構造の終わりに作成されるモデル（例：ソフトウェア / 自動化ツール / ワードプロセッサ / Microsoft Word 2001）が [ポートフォリオ品目] テーブルでソフトウェアを入力する際に使用されます。

モデルのリストを表示するには、ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / モデル] リンクをクリックします。

ポートフォリオ品目のモデルを作成する

モデルを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [新規作成] をクリックします。
- 2 [全般] タブページで [属性] フィールドに入力します。
- 3 [名前] フィールドに入力します。
- 4 [親モデル] フィールドに親モデルを入力します。
例： [自動化ツール] を作成する場合は、 [親モデル] フィールドに「ソフトウェア」と入力します。
- 5 特定のモデルを作成する場合は、 [ブランド] フィールドに入力します。
例：モデル「**Word 2001**」を作成する場合、 [ブランド] フィールドに「**Microsoft**」と入力します。
- 6 ロットの場合は、使用する単位を選択します。
- 7 作成するモデルを購入依頼で使用できる場合は、 [購入依頼用に承認済] オプションを選択します。必要に応じて、承認日と承認レベルを入力します。
- 8 [作成] をクリックして、作成を確定します。
- 9 モデルを基にするポートフォリオ品目が継承する情報を、適切なタブページで入力します。

ロットで使用する単位

ロットのモデルを作成する場合、モデルの単位を指定しなくてはならないときがあります。例えば、砂のロットのモデルを作成する場合、単位「トン」を使用します。

単位を作成するには、ポートフォリオで使用する測定項目（次元）用に、基準単位をあらかじめ作成する必要があります。次元には、温度、寸法、質量などがあります。基準単位が一旦作成されると、他の単位を無限に作成できます。これらの単位に対して、基準単位との変換係数を指定します。例えば、次元「質量」の基準単位「キログラム」と単位「トン」を作成したと仮定します。この場合、「トン」の変換係数は1000です（1000kg = 1t）。

ポートフォリオ品目のモデルで選択された単位は、 [ポートフォリオ品目] テーブルと [資産] テーブルの [数量] フィールドの右横に記号で表示されます。

基準単位を作成する

基準単位を作成するには、次の手順に従います。

- 1 単位を表示します（ナビゲーションバーの [管理 / システム / 単位] リンク）。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 [名前]、 [次元]、 [記号] フィールドに入力します（例：キログラム、質量、Kg）。
- 4 [変換係数] フィールドに「1」と入力します。

- 5 [作成] をクリックして、作成を確定します。

単位を作成する

単位を作成するには、次の手順に従います。

- 1 単位を表示します (ナビゲーションバーの [管理 / システム / 単位] リンク)。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 [名前]、[次元]、[記号] フィールドに入力します (例: ポンド、質量、lb)。
次元を選択すると、[変換係数] フィールドの隣にあるフィールドに、この次元の基準単位の記号が表示されます。
- 4 基準単位を作成する単位に変換するための係数を [変換係数] フィールドに入力します。例えば、ポンドの場合は「0.454」と入力します (1ポンド=0.454キログラム)。
- 5 [作成] をクリックして、作成を確定します。

単位の表示



注意:

この操作を実行できるのは、Windowsクライアント使用時のみです。

使いやすさのために、単位画面をカスタマイズし、仮想的な階層を作成することをお勧めします。

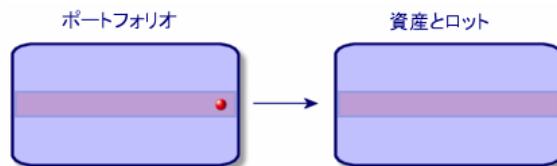
例えば、単位の次元で情報をまとめることができます。

- 1 単位を表示します (ナビゲーションバーの [管理 / システム / 単位] リンク)。
- 2 [次元] フィールドを右クリックします。
- 3 ショートカットメニューから [このフィールドでグループ分け] を選択します。
リストは次元でソートされ、各次元が階層の1レベルを定義します。

資産

AssetCenterでは「資産」は固有資産タグの付いたポートフォリオ品目にあたります。つまり資産の属性では、管理条件が「固有資産タグ」に指定されています (▶管理条件[献22])。この管理条件は、「個別管理」に対応します。データベース

上では、「資産」は、[資産]テーブルの1レコードと[ポートフォリオ品目]テーブルの1レコードで参照されます。



 **注意:**

[資産]テーブルのレコードで、[ポートフォリオ]タブをクリックすると、対応するポートフォリオ品目の詳細情報を参照できます。

資産のリストを表示するには、ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/資産]リンクをクリックします。

資産を作成する

資産を作成するには、次の手順に従います。

- 1 資産を表示します(ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/資産]リンク)。
- 2 [新規作成]をクリックします。
[全般]タブページで新規レコードに資産タグが割り当てられます。
- 3 [モデル]フィールドでモデルを選択します。

資産のモデルは、管理条件[固有資産タグ]を指定する属性を基盤にしています(▶管理条件[献 22])。

選択されたモデルで接頭コードが指定されている場合、この接頭コードが資産タグでも使用されます。

- 4 [作成]をクリックして、作成を確定します。
- 5 必要に応じて、資産に関するトラッキング情報を各タブページで入力します。
[全般]、[ポートフォリオ]、[プロジェクト]タブを除く全タブページは以下の分野に関連するトラッキング情報を含んでいます。

- 財務分野
 - コスト
 - 取得方法
 - 固定資産

このトラッキング分野に関しては、「資産に関する財務情報のトラッキング[献 39]」の節を参照してください。

- IT分野
 - ライセンス
 - 接続
 - ポート

このトラッキング分野に関しては、「ITポートフォリオ [献 53]」の章を参照してください。
- 契約分野
 - 契約
 - メンテナンス

▶ 資産を契約に関連付ける [献 46]およびマニュアル『契約』を参照してください。
- ケーブル分野
 - スロット
 - ピン/ターミナル
 - トレース
 - ポート

ケーブル情報のトラッキングに関しては、マニュアル『ケーブル』を参照してください。

資産にポートフォリオ品目を関連付ける

ポートフォリオ品目が資産である場合、これに他のポートフォリオ品目を関連付けることができます。資産に関連付けられるポートフォリオ品目は、次のカテゴリに分類できます。

- 消耗品

消耗品はポートフォリオ品目であり、基になるモデルの属性で [消耗品] オプションが選択されています。

動作オプションの詳細については、「属性：作成と動作オプション [献 21]」の節を参照してください。
- ソフトウェアのインストール

ソフトウェアのインストールは、ポートフォリオ品目であり、基になるモデルの属性の詳細画面にある [オーバーフローテーブル] (SQL名 : seOverflowTbl) フィールドで [ソフトウェアのインストール] が選択されています。

▶ 『ソフトウェア資産』ガイド。
- ライセンス

ライセンスはポートフォリオ品目であり、基になるモデルの属性で [ライセンス] オプションが選択されています。

▶ 『ソフトウェア資産』ガイド。

資産にポートフォリオ品目を関連付ける

資産にポートフォリオ品目を関連付ける方法には、以下の条件に応じて複数の方法があります。

- データベースにポートフォリオ品目が既に存在する場合
- 関連付ける時にポートフォリオ品目を仮作成する場合
- ポートフォリオ品目が在庫にあるロットで、ロットに含まれている一部のアイテムのみを関連付ける場合


リストの左手にデフォルトで表示されるフィルタオプションを使用すると、資産に関連付けられているポートフォリオ品目に対して属性別に（消耗品、ライセンス、ソフトウェアのインストール）フィルタを適用できます。

[開始]フィールドと[終了]フィールドを使用すると、関連付けを行った日付に応じてフィルタを適用できます。

既存のポートフォリオ品目を資産に関連付けるには、次の手順に従います。

- 1 ポートフォリオ品目を表示します（ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/ポートフォリオ品目]リンク）。
- 2 資産に関連付けるポートフォリオ品目を選択します。
- 3 [親レコード]（SQL名：Parent）リンクで関連付け先の資産を選択します。
- 4 [変更]をクリックします。

仮作成のポートフォリオ品目を資産に関連付けるには、次の手順に従います。

- 1 資産を表示します（ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/資産]リンク）。
- 2 ポートフォリオ品目の関連付け先となる資産を選択します。
- 3 [ポートフォリオ]タブページの[コンポーネント]サブタブページを選択します。
- 4 をクリックします。
- 5 資産に関連付けるポートフォリオ品目を作成します。
- 6 [追加]をクリックします。

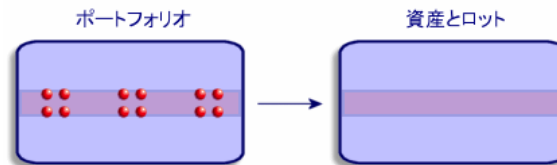
在庫にあるロットに含まれている一部のアイテムを資産に関連付けるには、次の手順に従います。

- 1 ポートフォリオ品目を表示します（ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/ポートフォリオ品目]リンク）。
- 2 在庫中のポートフォリオ品目の関連付け先となる資産を選択します。
- 3 [在庫]ボタンをクリックします。
- 4 [在庫の品目を追加する]ウィザードが表示されるのを待ちます。
- 5 [在庫の品目を選択する]画面で、資産に関連付けるロットを選択します。
- 6 [次へ]をクリックします。
- 7 [数量]ページで、資産に関連付けるロットのアイテムの数量を選択します。

- 必要に応じて他のフィールドにも入力します。
- 8 [終了]をクリックします。

ロット

AssetCenterでは「ロット」は資産タグの付いたポートフォリオ品目にあたります。つまり資産の属性では、管理条件が「資産タグ」に指定されています（▶管理条件[献22]）。この管理条件は、個別（固定資産タグ）ではなく「一括管理」に対応します。ロットとは、同一の品物の集まりです（例：安全ヘルメット1000個のロット）。ロットには、可算のロット（キーボード、セメント袋のロット）と不可算のロット（セメント、砂、灯油）があります。不可算の品目の単位にはキログラム、トン、リットル、メーターなどが使用されます。ロットが作成されると、[資産]テーブルと[ポートフォリオ品目]テーブルの各々に1レコードが作成されます。



注意:

[資産]テーブルのレコードで、[ポートフォリオ]タブをクリックすると、対応するポートフォリオ品目の詳細情報を参照できます。

あるロットを複数のロットに分割した場合、[ポートフォリオ品目]テーブルには複数のレコードが作成されます。ただし、分割されたロットはすべて、[資産]テーブルの単一のレコードにリンクされたまま変わりません（▶ロットを分割する[献35]）。

資産のリストを表示するには、ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/資産]リンクをクリックします。

ロットを作成する

ロットを作成するには、次の手順に従います。

- 1 資産を表示します（ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/資産]リンク）。
- 2 [新規作成]をクリックします。

[全般] タブページで新規レコードに資産タグが割り当てられます。

3 [モデル] フィールドでモデルを選択します。

ロットのモデルは、管理条件「資産タグ」が指定されている属性を基に作成されています (▶管理条件 [献 22])。

選択されたモデルで接頭コードが指定されている場合、この接頭コードがロットの資産タグでも使用されます。

4 ロットの数量を指定します。

ロットを定義するために、ロットで使用する基準単位を選択します (▶ロットで使用する単位 [献 28])。

5 [作成] をクリックして、作成を確定します。

6 必要に応じて、ロットに関するトラッキング情報を各タブページに入力します。

[全般]、[ポートフォリオ]、[プロジェクト] タブを除く全タブページは以下の分野に関連するトラッキング情報を含んでいます。

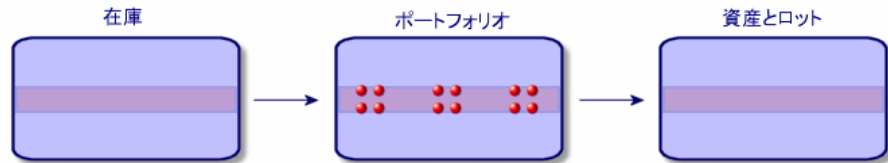
- 財務分野
 - コスト
 - 取得方法
 - 固定資産
 - ▶資産に関する財務情報のトラッキング [献 39]
- IT分野
 - ライセンス
 - 接続
 - ポート
 - ▶ITポートフォリオ [献 53].
- 契約分野
 - 契約
 - メンテナンス
 - ▶資産を契約に関連付ける [献 46] およびマニュアル『契約』
- ケーブル分野
 - スロット
 - ピン/ターミナル
 - トレース
 - ポート

ケーブル情報のトラッキングに関しては、マニュアル『ケーブル』を参照してください。

ロットを分割する

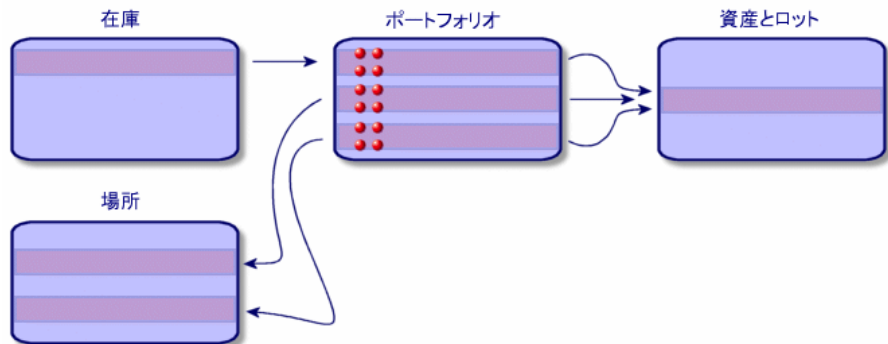
ロットを分割すると、元のロットのレコード（[資産]テーブル）から、[ポートフォリオ品目]テーブルに複数のレコードを作成できます。

例：椅子12脚のロットを受領し、在庫に入れると、[資産]テーブルに1レコードを作成します。データベース上では、[資産]テーブルと[ポートフォリオ品目]テーブルの各々に1レコードが作成されます。このロットを在庫に入庫します。



次にこのロットを、椅子4脚を含む3つのロットに分割します。1つのロット（椅子4脚）を在庫に保管したままにし、残りの2つのロットを2つの場所（AとB）に割り当てます。この場合、[資産]テーブルにある元のロットのレコードに変更はありません。しかし、[ポートフォリオ品目]テーブルは、以下の3つのロットに対応する3つのレコードが存在するように変更されます。

- 在庫に残す椅子4脚のロット
- 場所Aに割り当てられた椅子4脚のロット
- 場所Bに割り当てられた椅子4脚のロット



ロットを分割する

次の2とおりの方法でロットを分割できます。

- [ロットの分割]ウィザードを使用する。
- [資産]テーブルから[ポートフォリオ品目]テーブルに向けて複数のリンクを作成する。

[ロットの分割] ウィザードを使用する

[ロットの分割] ウィザードを使用するには、次の手順に従います。

- 1 ポートフォリオ品目のリストを表示します。
- 2 分割するロットを選択します。
- 3 [分割] をクリックします。
- 4 [ロットの分割] ウィザードの画面が表示されるのを待ちます。



- 5 [抽出数] フィールドに新しいロットに含める数量を入力します。
- 6 新しいロットに関する情報を入力します (場所、ユーザ、責任者など)
- 7 [終了] をクリックします。

[ポートフォリオ品目] テーブルでは、元のロットの数量が新しいロットの数量分減少しているはずですが、また同テーブルに新しいロットのレコードが作成されています。

[資産] テーブルから [ポートフォリオ品目] テーブルに向けて複数のリンクを作成する

[資産] テーブルから [ポートフォリオ品目] テーブルに向けて複数のリンクを作成するには、次の手順に従います。

- 1 資産のリストを表示します。
- 2 ロットのレコードを選択します。
- 3 [ポートフォリオ] タブを選択し、[ポートフォリオ品目] テーブルに向けてリンクを作成します。

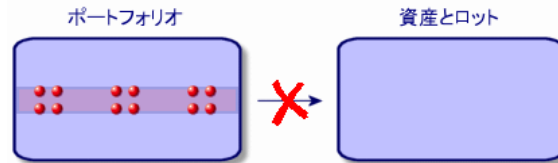
Windowsクライアント：[資産] テーブルのレコードを [ポートフォリオ品目] テーブルの複数のリンクに関連付けたら、これらのリンクをリスト形式で表示することをお勧めします ([ポートフォリオ] タブページ内にマウス

カーソルを置いてから、右クリックして[リストのみ]メニューを選択します)。

トラッキングしないロット

「トラッキングしないロット」とは、管理条件が「個別管理しない」に指定されている属性を基にして作成するポートフォリオ品目を指します(▶管理条件 [献 22])。この管理条件は、「非個別管理」に対応します。

トラッキングしないロットは、[ポートフォリオ品目]テーブルのみに記録されます。これにより、トラッキングしないロットの場所、ユーザ、責任者、コストセンタなどのコンテキスト情報が指定されます。トラッキングしないロットは[資産]テーブルでは参照されないため、財務情報、技術情報、契約情報は関連付けられていません。低価値のポートフォリオ品目(消耗品やサプライ品)は、トラッキングしないロットとして管理されます。例えば、鉛筆やインクカートリッジなどがこれにあたります。消耗品は、これを消費するポートフォリオ品目を経由して、間接的にトラッキングされます。



資産のリストを表示するには、ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/資産]リンクをクリックします。

トラッキングしないロットを作成する

トラッキングしないロットを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ポートフォリオ品目を表示します(ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/ポートフォリオ品目]リンク)。
- 2 [新規作成]をクリックします。
この新しいレコードにはコードが割り当てられます。
- 3 [モデル]フィールドでモデルを選択します。
- 4 トラッキングしないロットに含まれる数量を指定します。
ロットを定義するために、ロットで使用する基準単位を選択します(▶ロットで使用する単位 [献 28])。
- 5 [作成]をクリックして、作成を確定します。

- 必要に応じて、ロットに関するコンテキスト情報を各タブページに入力します（▶ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を指定する [献 44]）。

消耗品

「消耗品」とは、一旦資産に関連付けると、その関連付けが解除できないポートフォリオ品目を指します。「消耗品」は、管理条件が [個別管理しない] に指定されている属性を基にして作成されます。また、属性の動作オプションを [消耗品] に指定する必要があります（▶管理条件 [献 22]）。

▶資産にポートフォリオ品目を関連付ける [献 31]

トラッキングしないロットを分割する

トラッキングしないロットを分割するには、次の手順に従います。

- ポートフォリオ品目のリストを表示します。
- 分割するロットを選択します。
- [分割] をクリックします。
- [ロットの分割] ウィザードの画面が表示されるのを待ちます。

抽出数	1
割当	使用中
ユーザ	安西 博子
責任者	木村 敦子
在庫	大阪事務所の在庫
場所	/札幌事務所/ビル02/2階/
親レコード	1 Compaq Deskpro 4000S (DKTC)

- [抽出数] フィールドに新しいロットに含める数量を入力します。
- 新しいロットに関する情報を入力します（場所、ユーザ、責任者など）
- [終了] をクリックします。
[ポートフォリオ品目] テーブルでは、元のロットの数量が新しいロットの数量分減少しているはずですが、また同じテーブルに新しいロットのレコードが作成されています。

トラッキングしないロットをトラッキングするロットに変える

いろいろな理由から、トラッキングしないロットをトラッキングするロットに変える必要がある場合があるかもしれません。例えば、複数のプロジェクトに、複数の見本市で使用する機のロットをリンクすると仮定します。この場合、このロットに対応するレコードを [資産] テーブルに作成します。

トラッキングしないロットを変換するには、次の手順に従います。

- 1 ポートフォリオ品目のリストを表示します。
- 2 トラッキングしないロットを選択します。
- 3 [タグ] をクリックします。

この結果、ロットに対応するレコードが [資産] テーブルに作成され、これに資産タグが割り当てられます。資産タグは、[資産] テーブルのレコードのみに割り当てられる識別用の情報です。

資産に関する財務情報のトラッキング

資産に関する財務情報のトラッキングでは、以下の情報が記録されます。

- 資産の取得方法
どの方法でメールサーバを取得したか（購入、リースまたはローン）
- 資産に関連する経費
部署Aのコピー機のために50リームのコピー用紙を含むロットを何度注文したか？
- 固定資産の詳細情報
どの減価償却方法を社用車に適用するか？

財務情報をトラッキング（表示、編集）するには、資産のリストを表示し、以下の3つのタブの1つを選択します。

- [取得] タブページ
- [コスト] タブページ
- [固定資産] タブページ



注意:

ここで指す「資産」は、[資産] テーブルに登録されている資産とロットの両方を総称的に意味します。

資産の取得

[取得] タブページでは、主に資産の取得に関する情報が表示され、このタブページの情報の大半は、サブタブページに分類されています。

取得方法

AssetCenterでは、資産の4つの取得方法を管理できます。

- 購入
- レンタル
- リース
- ローン

選択した取得方法に応じて、次の表示情報が変わります。

- 資産の詳細画面にある特定のタブページ
- [取得]タブページの特定のフィールド
- [取得]タブページの特定のサブタブページ

デフォルトの[取得方法](SQL名:seAcquMethod)は、[購入]です。他には、[レンタル]、[リース]、[ローン]が選択可能です。

資産の取得に関連する契約

選択した取得方法に関係なく、[調達]サブタブページで契約を取得に関連付けることができます。選択した契約は、資産の詳細画面の[契約]タブページに表示されます。



警告:

契約の選択を確定すると、資産の[取得方法](SQL名:seAcquMethod)が、契約の詳細画面の[全般]タブページにある[取得方法](SQL名:seAcquMethod)フィールドで指定したファイナンス情報を表示するように自動的に変更されます。

資産またはロットの取得に関連する会社

[調達]サブタブページでは、次のことを選択できます。

- レンタルまたはリース資産の場合は[貸主コード](SQL名:LessorCode)
- ローン資産の場合は[貸主]

賃貸料に関する追加情報用のサブタブページ

選択した取得方法に関係なく、[取得]タブページに賃貸料情報用のサブタブページを追加できます。サブタブのラベル部分をマウスの右ボタンでクリックして、ポップアップメニューから[リンクレコードの追加]を選択します。


ここでは、非常に幅広い意味で賃貸料という用語を使います。例えば、保険手数料、メンテナンス契約の支払など、定期的に支払う金額と考えることができます。

これらのサブタブページは、リース賃貸料の情報を入力するサブタブページと似ています。

資産のコスト

資産の詳細画面の [コスト] タブページには、資産に関連する経費明細のリストが表示されます。

専用フィルタが、リストの上部に表示されます。

フィルタで経費明細を検索した後に  ボタンを使うと、リストに表示されている経費明細のコストの合計を計算できます。

固定資産を定義する

ここでは、次の事項について説明します。

- 固定資産の詳細情報を入力する
- 固定資産の会計情報を資産と関連付ける

固定資産の詳細情報を入力する

資産の減価償却の詳細情報を入力および計算する

資産の減価償却に関する情報は、資産の詳細画面の [固定資産] タブページにあります。

このタブページは、[取得] タブの [取得方法] (SQL名: seAcquMethod) フィールドが [購入] に設定されている場合のみ表示されます。

このタブページには2種類の情報が表示されます。


- 画面左側には、資産の減価償却と残存価額の計算に使うフィールドとリンクが含まれています。
- 画面右側のリストには、資産をAssetCenterにインポートした後に、資産に関連付けられた [固定資産] (SQL名: amFixedAsset) テーブルのレコードが表示されます。


減価償却の計算式は、[減価償却の計算式] (SQL名: amDeprScheme) テーブルで定義します。

資産に適用する減価償却の計算方法は、[減価償却方法] (SQL名: DeprScheme) フィールド (リンク) を使って選択します。

減価償却の計算式を定義する

減価償却の計算式を定義するには、次の手順の1つに従います。

- 資産の詳細画面で次の操作を行います。
 - 1 [固定資産] タブページを表示します。
 - 2 

 (Windowsクライアント) をクリックするか、[減価償却方法] (DeprScheme) フィールドの右をクリックします (Webクライアント)。

- [管理 / 画面一覧] メニューを選択します。

 注意:

この操作を実行できるのは、Windowsクライアント使用時のみです。

- 1 [減価償却の計算式] のリスト (SQL名: amDeprScheme) を選択します。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 [全般] タブページに入力します。
- 4 [スクリプト] タブページで計算スクリプトを作成します。

スクリプトには、次のフィールドを使って減価償却値を計算することを指定します。

- [減価償却の計算式] テーブル
 - [期間] (SQL名: tsDeprDur) フィールド
 - [加速係数] (SQL名: fCoeff) フィールド
 - [償却率] (SQL名: pRate) フィールド
- [資産] (SQL名: amAsset) テーブル
 - [開始日] (SQL名: dStartAcqu) フィールド
 - [減価償却基準] (SQL名: mDeprBasis) フィールド
 - [見積日] (SQL名: dDeprRecalc) フィールド

計算された結果によって、[減価償却] (SQL名: mDeprVal) フィールドの値が変わります。

 注意:

[残存価額] (SQL名: mNetValue) フィールドは、[減価償却基準] フィールドまたは [減価償却] フィールド、あるいはその両方が変更されるとAssetCenterにより自動的に再計算されます。

定額法による減価償却の単純な計算スクリプトの例を示します。

```
Dim iNbOfDays As Integer
iNbOfDays = amDateDiff([dDeprRecalc],[dStartAcqu])
If (iNbOfDays <= 0) Or ([DeprScheme.tsDeprDur] <= 0) Then
Set [mDeprVal] = 0
Elseif (iNbOfDays >= [DeprScheme.tsDeprDur]) Then
Set [mDeprVal] = [mDeprBasis]
Else
Set [mDeprVal] = [mDeprBasis] * iNbOfDays / [DeprScheme.tsDeprDur]
End If
Set [dDeprRecalc] = amDate -> Set [dDeprRecalc] = amDate()
```

[減価償却] フィールドの値は、参照フィールドが変更されると、AssetCenterの自動処理機能によって自動的に再計算されます。

複数の資産の減価償却を見積もる

選択した複数の資産の [減価償却] フィールドの値を同じ日付で計算して更新するには、更新する資産を同時に選択した後で、 [見積日] フィールドの値を変更します。

この処理を実行する [スクリプト] [タイプ] のアクション (SQL名: seActionType) を作成することもできます。次のようなスクリプトを使います。

```
Set [dDeprRecalc] = amDate
```

[減価償却] フィールドの値は、AssetCenterのデフォルトの自動処理機能によって更新されます。

複数の資産に対して、定期的に上記のアクションをトリガするワークフローを作成することもできます。

固定資産の会計情報を資産と関連付ける

次の2つの方法があります。

資産の詳細画面で設定

- 1 [固定資産] タブページを表示します。
- 2 資産に関連する固定資産を追加または削除します。
または、別のウィンドウで固定資産のリストを表示して、資産に関連させる固定資産を選択し、資産の [固定資産] タブページのリストにドラッグして追加することもできます。

固定資産の詳細画面で設定

- 1 [資産] タブページを表示します。
- 2 資産に関連する固定資産を追加または削除します。
または、別のウィンドウで資産のリストを表示して、固定資産に関連させる資産を選択し、固定資産の [資産] タブページのリストにドラッグして追加することもできます。

ポートフォリオ品目の移動

[ポートフォリオ品目] テーブルを使って、ポートフォリオ品目の移動を管理できます。

AssetCenterでは、各ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を変更できます。また、他のテーブルで情報を変更すると、この変更事項は、[ポートフォリオ品目] テーブルに自動的に適用されます。例えば、コピー機Aが部署Bに割り当てられたと仮定します。[ポートフォリオ品目] テーブルでこのコピー機のレコードを表示すると、この場所変更を把握することができます。また、[ポートフォリ

オ品目]テーブルでは、納品待ちの注文品をどの従業員が予約しているかを知ることができます。

[ポートフォリオ品目]テーブルでは、ポートフォリオ品目の移動を管理するために、特に以下の2つのタブページを使用します。

- [全般]タブページでは、ポートフォリオ品目の移動をトラッキングします。
- [予約]タブページでは、未割当のポートフォリオ品目を予約できます。

ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を指定する

[ポートフォリオ品目]テーブルにある[全般]タブページのフィールドに入力すると、ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を指定できます。以下のコンテキスト情報を入力できます。

- 割当
- 使用開始日と棚卸日
- ユーザ
- 責任者
- 設置場所（未割当のポートフォリオ品目の場合は在庫場所）
- コストセンタ

デフォルトで使用されるコンテキスト情報が不十分であると判断する場合は、新しいフィールドや任意管理項目を追加できます。任意管理項目の追加に関しては、AssetCenterのマニュアル『Cross-functional tables』の「Features tables」の章、およびマニュアル『管理』の「データベースのカスタマイズ」の章を参照してください。

[ポートフォリオ品目]テーブルでは、ロットを分割することができます。[ロットを分割する[献35]]ウィザードを使って、ロットに新しい場所、部署、コストセンタなどを指定できます。[ロットを分割する[献35]]ウィザードを使って作成したロットは、[資産]テーブルの同じレコードにリンクされたままになります。この結果、異なるコンテキスト情報を持つ複数の品目をまとめてトラッキングできます。

▶ ロット [献33]

ポートフォリオ品目を予約する

ポートフォリオ品目を予約できるのは、ポートフォリオ品目の詳細画面の[全般]タブページにある[割当]（SQL名：seAssignment）フィールドが、[在庫中]または[納品待ち]に設定されている場合だけです。

ポートフォリオ品目は、次のいくつかの方法で予約できます。

ポートフォリオ品目の詳細画面で設定

ポートフォリオ品目を予約するには、次の手順に従います。



- 1 ポートフォリオ品目を表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / ポートフォリオ品目] リンク）。
 - 2 選択されたポートフォリオ品目の依頼明細を入力します。
 - 3 予約する資産の詳細画面の [予約] タブページを表示します。
 - 4 予約の開始および終了日と、予約した人を指定します。
- 予約を削除するには、[割当] フィールドの値を変更するか、予約に関連するフィールドの値を削除します。

購入依頼の詳細画面で設定


購入依頼には、次のポートフォリオ品目を含めることができます。

- [ポートフォリオ品目] テーブルにまだ存在しない、発注予定のポートフォリオ品目
- 購入依頼を介して予約されるポートフォリオ品目。このようなポートフォリオ品目は既に [ポートフォリオ品目] テーブルに作成されており、上で定義した条件を満たしています。

購入依頼からポートフォリオ品目を予約するには、次の手順に従います。

- 1 購入依頼の詳細画面を表示します。
- 2 [明細] ボタンをクリックして、依頼内容の明細を表示します。
- 3 [予約] タブページに移動します。
- 4  をクリックします。
- 5 表示されるウィンドウには、[割当]（SQL名：seAssignment）フィールドが [在庫中] または [納品待ち] に設定されているポートフォリオ品目が表示されます。
- 6 条件を満たすポートフォリオ品目が既にデータベース内にある場合は、そのポートフォリオ品目を選択してから [選択] ボタンをクリックして予約します。希望するポートフォリオ品目がない場合は、[新規作成] ボタンをクリックして新しいポートフォリオ品目を作成します。作成するポートフォリオ品目の [割当] フィールドには、[在庫中] または [納品待ち] が表示されず。必要なフィールドに情報を入力してから、[追加] ボタンをクリックしてポートフォリオ品目を作成し、次に [選択] ボタンをクリックしてそのポートフォリオ品目を予約します。
- 7 依頼の明細の詳細画面で [変更] をクリックして、予約を確定します。
- 8 必要に応じて、依頼の明細の詳細画面の [予約] タブページで  をクリックし、ポートフォリオ品目の詳細画面の [全般] タブページにある [予約終了日]（SQL名：dReservEnd）フィールドに値を入力します。

依頼から作成したポートフォリオ品目の予約を削除するには、次の手順に従います。

- 1 依頼の明細の詳細画面の [予約] タブページで予約するポートフォリオ品目を選択します。
- 2  をクリックして、予約するポートフォリオ品目を削除します。

在庫管理への影響

ポートフォリオ品目を予約すると、このポートフォリオ品目の在庫管理に影響が及びます。予約したポートフォリオ品目は、在庫レベルのチェック時にはカウントされません（▶ [在庫規則の作成](#) [献 48]）。

注意:

予約したポートフォリオ品目の割当て先の在庫は、ポートフォリオ品目の詳細画面の [全般] タブページにある [在庫]（SQL名：Stock）フィールドに示されません。

ポートフォリオ品目の寿命を管理する

ポートフォリオ品目が使われなくなった場合（処分、廃棄、盗難、売却など）は、データベースで各ポートフォリオ品目のステータスを現状に合わせて変更し、そのままデータベースに残しておくのが便利です。

ポートフォリオ品目の寿命を管理するには、以下の手順に従います。

- 1 使われなくなったポートフォリオ品目を選択します。
 - 2 [全般] タブページにある [割当]（SQL名：seAssignment）フィールドを [除却済(または消費済)] に設定します。
 - 3 必要に応じて、[親レコード]（SQL名：Parent）フィールドのテキストを削除して、親資産からこのポートフォリオ品目を切り離します。
 - 4 必要に応じて、[固定資産]、[契約]、[メンテナンス]、[取得]、[接続]、および [プロジェクト] タブページの情報も更新します。
-

注意:

あるポートフォリオ品目のレコードを削除すると、そのポートフォリオ品目に関する情報はすべて失われます。このため、使用期間が終了しても、情報（減価償却、履歴、メンテナンスなど）を保存する必要があるポートフォリオ品目は、ステータスを「除却済」に変更することをお勧めします。

資産を契約に関連付ける

資産を1つまたは複数の契約に関連付けることができます。

資産の詳細画面の [契約] タブページと [取得] タブページに、資産に関連付けられている契約のリストが表示されます。



注意:

ここで指す「資産」は、[資産]テーブルに登録されている資産とロットの両方を総称的に意味します。

[契約] タブページ

資産の詳細画面の [契約] タブページには、資産に関連する契約のリストが表示されます。

専用フィルタはタブページの上部に表示されます。

このフィルタを使うと、以下の3条件に応じて契約を表示できます。

- フィルタ [すべて] は、すべての契約を表示します。
- フィルタ [有効] は、一定の期間で有効な契約を表示します。
- フィルタ [失効] は、有効期限の切れた契約を表示します。

関連契約は、属性、会社、開始日、終了日、資産の追加日別に表示 / 分類されています。

契約を追加する時、または契約明細を表示する時、契約明細の詳細画面が開きます。

- 希望する契約を選択してから、契約に資産を追加した日付と削除予定日を指定します。
- [権限] (SQL名 : seAuthorization) と [使用権利数] (SQL名 : IUseCount) フィールドにも必要に応じて値を入力します。

[取得] タブページ

契約内容に応じて資産を取得できます。

資産の詳細画面の [取得] タブページでは、次のいずれかの方法で取得した資産に契約を関連付けることができます。

- 購入
- レンタル
- リース
- ローン

取得方法に応じて表示されるサブタブページを使って、取得契約の詳細を指定できます。

資産に関連する契約の作成と管理に関する詳細については、マニュアル『契約』を参照してください。

在庫

在庫には、在庫に入っているポートフォリオ品目および納品待ちのポートフォリオ品目が含まれます。

ポートフォリオ品目の詳細画面で、[全般]タブページに[割当]（SQL名：seAssignment）フィールドが[在庫中]または[納品待ち]に設定されています。例：最近購入したポートフォリオ品目で、ユーザにはまだ割り当てられていないポートフォリオ品目。これらのポートフォリオ品目は、在庫の詳細画面の[ポートフォリオ]タブページに表示されます。

AssetCenterでは、自動購入依頼をトリガする規則を在庫に関連付けて、在庫を補充することができます。再発注レベルは、AssetCenter Serverがモニタします。



警告:

使用するモニタ機能を有効にするには、クライアントまたはサーバのコンピュータでAssetCenter Serverを稼働している必要があります。

AssetCenterで作成できる在庫数に制限はありません。

[在庫]テーブルを表示するには、ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/拡張ポートフォリオ/在庫]リンクをクリックします。


在庫規則の作成

AssetCenterでは、在庫に自動購入依頼をトリガする規則を関連付けて、消費されるポートフォリオ品目の在庫を補充することができます。

これらの規則は、在庫の詳細画面の[管理]タブページで定義します。それぞれの規則にはモデルが関連付けられており、そのモデルを基にするポートフォリオ品目の在庫が一定数を下回ると、自動的に再発注されます。

各在庫明細の再発注状況は、AssetCenter Serverがモニタします。

在庫規則を作成するには、次の手順に従います。

- 1 [管理]タブをクリックします。
- 2  をクリックします。
- 3 [規則の定義]画面が表示されるのを待ちます。
- 4 在庫規則の適用対象となるポートフォリオ品目のモデルを指定します（例：プリンタのインクカートリッジ）。
- 5 [発注点]（SQL名：lReordLevel）フィールドで、購入依頼の作成をトリガする在庫数の下限を指定します（例：5）。
- 6 [発注数]（SQL名：lQtyToOrder）フィールドには、上記の下限を下回ったときに発注するポートフォリオ品目の数量を指定します。

ポートフォリオ品目が資産またはロットの場合、AssetCenter Serverは購入依頼（[数量]フィールドの値=5）を作成します。この購入依頼から発注した品物を受領すると、次のことが起こります。

- 資産の場合、[ポートフォリオ品目]テーブルにレコード5が作成されます。
- ロットの場合、[ポートフォリオ品目]テーブルにインクカートリッジ5個を含むロットのレコードが1つ作成されます。

各モデルの在庫は、次のようにして自動的に管理されます。

- 1 在庫の詳細画面の[ポートフォリオ]タブページの情報を元に、AssetCenter Serverが現在の在庫数を計算します。
ロットに対応するポートフォリオ品目の場合、AssetCenter Serverはロットに含まれる[数量]（フィールド）の値を確認します。
- 2 現在の在庫数が、在庫規則の詳細画面の[発注点]（SQL名：IReordLevel）フィールドで指定した数量を下回ると、AssetCenter Serverは購入依頼を自動的に作成します。
- 3 依頼した全数量が受領されない間、AssetCenter Serverは依頼元の在庫規則をチェックしないため、新しい依頼は作成されません。
- 4 全依頼数が受領されると、AssetCenter Serverは次の処理を実行します。
 - 在庫数を再調整します。
 - 在庫規則の詳細画面の[依頼明細]（SQL名：ReqLine）フィールドの内容を消去します。
 - 在庫規則を再度有効にします。

 **注意:**

在庫テーブルの数量をチェックする頻度を定義するには、AssetCenter Serverを使います。

現在の在庫数の計算方法

特定のモデルの在庫規則をチェックし、実際に使用できる在庫数を割り出すために、AssetCenter Serverは、在庫の詳細画面の[ポートフォリオ]タブページにある同モデルを基にしたポートフォリオ品目の数を計算します。

未予約のポートフォリオ品目のみが数えられます。

再発注依頼を作成する

必要に応じて、AssetCenter Serverが、次の情報を元に各在庫規則に従って再発注依頼を作成します。

- 在庫の詳細画面の[自動依頼]タブページで定義されている購入依頼の詳細。
- 購入依頼時の再発注数（在庫規則の詳細画面の[発注数]（SQL名：IQtyToOrder）フィールド）

この方法で在庫数をモニタした結果、自動的に作成された購入依頼の発注明細が受領されると、在庫数が調整されます。

在庫の管理プロセス

本節の内容は以下のとおりです。




- 在庫内のポートフォリオ品目のリスト
- ポートフォリオ品目を在庫に入庫する
- 在庫からポートフォリオ品目を出庫する

在庫内のポートフォリオ品目のリスト

在庫の詳細画面の [ポートフォリオ] タブページには、在庫内のすべてのポートフォリオ品目のリストが表示されます。

フィルタ

在庫のポートフォリオ品目のリストの上には、次の3つのフィルタが表示されます。

-  1番目のシンプルフィルタ
-  2番目のシンプルフィルタ
-  3番目のシンプルフィルタ

フィルタ間では、「AND」条件（SQLによる）が適用されます。

在庫のポートフォリオ品目のリストをツリー構造で表示する

在庫のポートフォリオ品目のリストをツリー構造で表示する場合は、次の点に注意してください。

- 在庫のポートフォリオ品目に従属ポートフォリオ品目が関連付けられていて、その従属ポートフォリオ品目が在庫にない場合は、従属ポートフォリオ品目は表示されません。
- 在庫のポートフォリオ品目が別のポートフォリオ品目の従属ポートフォリオ品目である場合は、その親ポートフォリオ品目も表示されます。ただしその親ポートフォリオ品目が在庫にない場合は、淡色で表示されます。

ポートフォリオ品目を在庫に入庫する


ポートフォリオ品目を在庫に入庫するには、次の方法があります。

ポートフォリオ品目の詳細画面で指定

ポートフォリオ品目の詳細画面の [全般] タブページで、次のように指定します。

- 1 [割当]（SQL名：seAssignment）フィールドを [在庫中] に設定します。
- 2 [在庫]（SQL名：Stock）フィールドで在庫名を選択します。

在庫の詳細画面で指定

在庫の詳細画面の [ポートフォリオ] タブページの  ボタンを使って、ポートフォリオ品目を追加します。

発注の詳細画面で指定

ポートフォリオ品目を作成する明細を使うと、在庫内にポートフォリオ品目を作成できます。作成するには、次の手順に従います。

- 1 発注のテーブルで、該当する発注を選択します（ナビゲーションバーの [調達 / 発注] リンク）。
- 2 ポートフォリオ品目を作成する発注明細の [購入] タブページの [配達先在庫]（SQL名：Stock）フィールドに、在庫名が表示されることを確認します。表示されない場合は、このフィールドに入力します。
- 3 納品待ちのポートフォリオ品目を作成するには、発注の [ステータス] フィールドの値が [承認済] または [発注済] であることを確認します。次に [作成] ボタンをクリックすると、ポートフォリオ品目が [ポートフォリオ品目] テーブルに作成されます。

このようにして作成したポートフォリオ品目の詳細情報は、次のようになります。

- ポートフォリオ品目の詳細画面の [全般] タブページ / [割当] フィールドは、[納品待ち] に設定されます。
- [在庫] フィールド（ポートフォリオ品目の詳細画面の [全般] タブページ）には、ポートフォリオ品目の発注の明細の [購入] タブページ / [配達先在庫] フィールドで指定した在庫と同じ在庫名が表示されます。

在庫からポートフォリオ品目を出庫する

特定の在庫からポートフォリオ品目を出庫するには、次の方法があります。

ポートフォリオ品目の詳細画面で指定

ポートフォリオ品目の詳細画面の [予約] タブページで、次のように指定します。

- 1 ポートフォリオ品目のリストを「リストと詳細」モードで表示します。
- 2 在庫から出庫するすべての資産を選択します。
- 3 [割当]（SQL名：seAssignment）フィールドを [使用中] に設定します。
- 4 ポートフォリオ品目のユーザと責任者が、在庫から出庫するすべての資産に共通している場合は、ユーザを選択します。
- 5 設置場所が在庫から出庫するすべてのポートフォリオ品目に共通している場合は、複数のポートフォリオ品目を選択したまま必要に応じて設置場所のフィールドに指定します。

在庫の詳細画面で指定

- 1 在庫の詳細画面の [ポートフォリオ] タブページに移動します。

- 2 在庫から出庫するポートフォリオ品目をすべて選択します。
- 3 リストの右側にある ボタンを押します。ここでポートフォリオ品目を削除すると、ポートフォリオ品目の詳細画面の [割当] (SQL名: seAssignment) フィールドが [使用中] に設定されます。

または

- 1 在庫の詳細画面の [ポートフォリオ] タブを選択します。
- 2 在庫から出庫する各品目の詳細を表示します。
- 3 各ポートフォリオ品目の詳細画面の [全般] タブページ / [割当] フィールドを [使用中] に設定します。
- 4 ポートフォリオ品目のユーザ、責任者、および設置場所を選択します。

3 ITポートフォリオ

AssetCenterはITポートフォリオの管理にとりわけ適しています。IT分野に関連するフィールドやテーブルを使って、様々な種類のコンピュータ（コンピュータ、ワークステーション、ノートブックコンピュータ、サーバなど）を管理できます。

コンピュータ

コンピュータを管理するには、個別管理タイプの管理方法をお勧めします。コンピュータのモデルで技術情報を定義すると、同モデルを基にして作成されるコンピュータはその技術情報を継承します。

個別管理タイプを選択する場合のみに、[ポートフォリオ品目]テーブル、[資産]テーブル、および[電話]テーブルの各々にレコードが作成されます（▶オーバーフローテーブル[献 16]）。

コンピュータの属性を作成する

個別に管理するコンピュータの属性を作成するには、次の手順に従います。

- 1 属性を表示します（ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/属性]リンク）。
- 2 [新規作成]をクリックします。
- 3 作成する属性の名前とコードを入力します（例：コンピュータとコンピュータ）。

- 4 [作成] フィールドで [ポートフォリオ品目] を選択します。
- 5 [オーバーフローテーブル] フィールドで [コンピュータ(amComputer)] を選択します。
[コンピュータ] テーブルは、ソフトウェア配布ツールをAssetCenterと統合するのに使用されます。
- 6 [ソフトウェアをインストール] オプションと [接続可能] オプションを選択します。
- 7 [作成] をクリックして、作成を確定します。

コンピュータのモデルを作成する

コンピュータのモデルを作成するには、普通のモデルを作成する手順に従います (▶ [モデル](#) [献 27])。コンピュータに特有の属性を選択する必要があります (▶ [コンピュータの属性を作成する](#) [献 53])。

[ポートフォリオ品目] テーブルは [モデル] テーブルを基にして構成されるため、一般的なモデルをまず作成するようをお勧めします。例えば、モデル「コンピュータ」を作成し、その従属モデルとして「デスクトップコンピュータ」、「ポータブルコンピュータ」、「サーバ」を作成します。さらに、各従属モデルに属するモデルを作成し、これらのモデルを基にしてポートフォリオのコンピュータを作成します。

例：コンピュータのモデルを作成する

ここでは、以下の特性を持つコンピュータのモデルを作成します。

- コンピュータ「HP VECTRA VL 800」
- プロセッサ「Intel® Pentium® 4 1.3 GHz」
- 128 MB RDRAM
- 40GBのハードドライブ
- 3.5"、1.44MBのディスクドライブ
- DVD-ROM 12x/40x
- HPマルチメディアキーボード
- HPオプティカルマウス

このコンピュータのモデルを作成するには、次の手順に従います。

- 1 モデルを表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / モデル] リンク)。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 [名前] フィールドに「VECTRA VL 800」と入力します。
- 4 [ブランド] フィールドに「Hewlett-Packard」と入力します。
- 5 [親モデル] フィールドで、「デスクトップ」を選択します。

- 6 [全般] タブページの [属性] フィールドで、コンピュータのモデルを作成するのに適した属性を選択します (▶[コンピュータの属性を作成する](#) [献53])。
- 7 [ハードウェア] タブページでコンピュータに関する情報を入力します。
 - [CPU] フィールドに「プロセッサ」と入力します。
 - [CPU速度] フィールドに「1300」と入力します (デフォルト単位はメガヘルツです)。
 - [メモリ] フィールドに、「128」と入力します。
 - [ディスク容量] フィールドに「40000」と入力します。
- 8 [作成] をクリックして、作成を確定します。
- 9 上記の手順に従って、コンピュータのコンポーネント用のモデルを作成します。
 - ディスクドライブ
 - DVDドライブ
 - キーボード
 - マウス

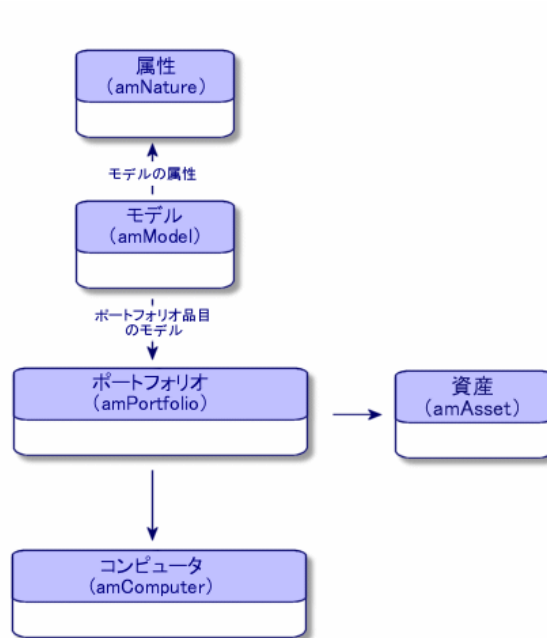
あるモデルを別のモデルに関連付けることはできません。ただし、コンピュータ「VECTRA VL 800」を作成した後に、コンポーネントのモデルを基にした資産を同コンピュータに関連付けることは可能です (▶[資産にポートフォリオ品目を関連付ける](#) [献31])。

コンピュータを作成する

コンピュータは以下の3つのテーブルに記録されます。

- [ポートフォリオ品目] (SQL名: amPortfolio) テーブル
- [資産とロット] (SQL名: amAsset) テーブル
- [コンピュータ] (SQL名: amComputer) テーブル

以下の図は、コンピュータに関連するテーブルを示しています。



コンピュータの作成方法は、資産の作成方法に類似しているため、詳しくは「[資産を作成する \[献30\]](#)」の節を参照してください。ポートフォリオ品目をコンピュータに関連付ける方法については、「[資産にポートフォリオ品目を関連付ける \[献32\]](#)」の節を参照してください。コンピュータに関連付けられる資産とは、周辺機器（キーボード、プリンタ、各種ドライブ）、ソフトウェアアプリケーション、消耗品を指します。

コンピュータの標準セット

コンピュータの標準セット（バンドル商品）には、CPU、基本周辺機器、基本ソフトウェアが含まれています。

必要に応じて、標準セットを固有の資産として管理するか、または標準セットの各コンポーネントを別々の資産として管理するかを選択できます。

標準セットを固有の資産として管理する

標準セットを固有の資産として管理するには、これに対応するモデルをまず作成します。次にこのモデルを基にして標準セットを作成します。そして最後に、標準セットに消耗品、ソフトウェア、周辺機器を関連付けます。

利点

標準セットを固有の資産として管理すると、入力作業を軽減できます。また、標準セットは、[資産]テーブルの1レコードのみに対応するので、財務情報のトラッキングに関連するコストを減少できます（減価償却、固有の取得価格、会計の簡素化など）。ただし、標準セットのあるコンポーネントを大幅に変更する場合には（削除、更新）、複雑な調整プロセスを実行しなければなりません。

標準セットのコンポーネントを関連資産として管理する

標準セットのコンポーネントを関連資産として管理するには、次の操作を実行します。

- 1 関連資産に対応するレコードを作成する（▶「資産を作成する [献 30]」）。
- 2 標準セットのコンポーネントの中から、主要コンポーネントを選択する（例：CPU）。
- 3 主要コンポーネントにその他のコンポーネントを関連付ける（▶「資産にポートフォリオ品目を関連付ける [献 31]」）。

利点

標準セットのコンポーネントを関連資産として管理すると、各コンポーネントを正確にトラッキングできます。キーボードを交換する場合、古いキーボードへのリンクを削除し、新しいキーボードへのリンクを作成します。

コンピュータ間の接続

AssetCenterでは、コンピュータ間の接続情報を指定できます。

AssetCenterで使う接続テンプレートでは、AとBの2台のコンピュータ間の一般的な接続情報を指定できます。このテンプレートをカスタマイズすると、すべての接続タイプ、特にクライアント/サーバタイプの情報を指定できます。「接続」の概念は、AssetCenterの次の画面で使われます。

- モデルの詳細画面（SQL名：amModel）、または資産の詳細画面（SQL名：amAsset）の [ポート] タブページ
- 接続タイプのリスト（SQL名：amCnxType）

接続条件

接続情報は、資産の詳細画面の [ポート] タブページに入力されています。このタブページを表示するには、資産のモデルの属性の詳細画面で、 [接続可能] オプションを選択する必要があります (▶ 属性における動作オプション [献 22] および 属性 [献 25])。

注意:

コンピュータには任意の数のポートを設定でき、各ポートには固有の番号が付けられます。1つのポートで1つのコンピュータに接続できます。

ポート

コンピュータ間の接続はポートを使って行います。コンピュータAのポートとコンピュータBのポートが接続されたときに接続が有効になります。これは双方向の接続で、接続している両方のコンピュータの詳細画面の [ポート] タブページに接続状況が表示されます。このページで次の接続状況を確認できます。

- 使用中 (別のコンピュータのポートまたは同じコンピュータの別のポートに接続している)。この場合は次のように表示されます。

<コンピュータ> <ポート番号> - <ポート番号> <コンピュータ>

例えば、コンピュータAとコンピュータBが接続されている場合は、それぞれの詳細画面に次のように表示されます。

- コンピュータAの接続状況

<コンピュータA><コンピュータAが使用しているポート番号>-<コンピュータBが使用しているポート番号><コンピュータB>

- コンピュータBの接続状況

<コンピュータB><コンピュータBが使用しているポート番号>-<コンピュータAが使用しているポート番号><コンピュータA>

- 空き (接続に使用できる)。この場合は次のように表示されます。

<コンピュータ> <ポート番号> -

接続を作成する

ここでは、2つのコンピュータ間の接続を作成する方法を、例を使って説明します。接続するコンピュータの片方をサーバ、もう片方をクライアントとして定義します。接続例の手順は次のとおりです。

- 1 接続を作成する
- 2 接続するコンピュータを作成する

- 3 コンピュータ間の接続を作成する
- 4 接続に関する追加情報

接続を作成する

接続タイプを作成すると、次のフィールドで2つのタイプのポートの関係を定義します。

- [タイプ] (SQL名: Type)。ソースポートを指定します。
- [ターゲットポートのタイプ] (SQL名: TargetType)。ソースポートに接続するリモートポート (ターゲットポート) を指定します。

これは1方向の接続です。特定のポートでソースポートのタイプを選択すると、接続先ポート (ターゲットポート) のタイプも自動的に選択されます。先にターゲットポートのタイプを選択した場合は、接続先のコンピュータのソースポートのタイプは自動的に選択されません。このため、双方向の接続テンプレートを作成するには、2種類の対称接続を作成する必要があります。例えば、クライアント/サーバ接続の場合は次のようになります。

- 「クライアント」タイプから「サーバ」タイプへ
- 「サーバ」タイプから「クライアント」タイプへ

ここでは、双方向のクライアント/サーバ接続テンプレートを作成します。コンピュータAとコンピュータB間の接続の作成時にこのテンプレートを選択すると、自動的に次のように処理されます。

- コンピュータAのポートタイプが「クライアント」の場合は、接続先のコンピュータBのポートタイプが「サーバ」になる。
- コンピュータAのポートタイプが「サーバ」の場合は、接続先のコンピュータBのポートタイプが「クライアント」になる。

注意:

この自動処理機能は、接続を直接作成した場合のみ起動されます。

接続タイプの画面を開く

接続タイプを表示します (ナビゲーションバーの [管理 / 接続タイプ] リンク)。

クライアント/サーバタイプの接続を作成する

次の手順に従って、クライアント/サーバタイプの接続を作成します。

- 1 [新規作成] をクリックします。
- 2 [ソースポートのタイプ] フィールドを「クライアント」に設定します。
- 3 [ターゲットポートのタイプ] フィールドを「サーバ」に設定します。
- 4 必要に応じて、[説明] (SQL名: memDescription) フィールドに説明を入力します。
- 5 [作成] をクリックして、作成を確定します。

サーバ/クライアントタイプの接続を作成する

次の手順に従って、サーバ/クライアントタイプの接続を作成します。

- 1 [新規作成] をクリックします。
- 2 [ソースポートのタイプ] フィールドを「サーバ」に設定します。
- 3 [ターゲットポートのタイプ] を「クライアント」に設定します。
- 4 必要に応じて、[説明] (SQL名: memDescription) フィールドに説明を入力します。
- 5 [作成] をクリックして、作成を確定します。

接続するコンピュータを作成する

手順1- コンピュータのモデルを作成する

サーバのモデルとクライアントのモデルを作成する方法については、「例: コンピュータのモデルを作成する [献 54]」の節を参照してください。

コンピュータ2台の各モデルを作成する際に、[ポート] タブページのフィールドに入力します。ここで入力される値は、これらのモデルを基にして作成されるコンピュータにより継承されます。

以下の表は、サーバのモデルとクライアントのモデルで入力する情報の例です。

サーバ	クライアント
■ Sun Microsystems Sun Fire 15K	■ HP VECTRA VL 800コンピュータ
■ UltraSparc III 64-bit 900 MHz	■ Intel® Pentium® 4 1.3 GHz プロセッサ
	■ 128 MB RDRAM
	■ 40GBのハードドライブ

サーバのモデルとクライアントのモデルを作成したら、次に [資産] テーブルに2台のコンピュータを作成します (▶ [資産を作成する \[献 30\]](#))。

手順2- [資産] テーブルでコンピュータを作成する

資産を表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / 資産] リンク)。

前に作成した2つのモデルを選択して2つの新規資産を作成します。作成を有効にするには、[作成] をクリックします。

コンピュータ間の接続を作成する

接続の作成方法


2つのコンピュータ間で接続を作成するには、次の2つの方法があります。

- まず該当する各コンピュータでポートを作成し、これらのポートをリンクして接続を作成する。接続の作成にはこの方法をお勧めします。
- 2つのコンピュータの1台から直接接続を作成する。

ここでは、両方の方法を使って2つのコンピュータを接続します。


各コンピュータでポートを作成し、これらのポートをリンクする

資産のテーブルのレコードリストからコンピュータ「SunFire15K」を選択し、資産の詳細画面の [ポート] タブをクリックします。次に、このコンピュータに空のポートを作成します。

- 1  ボタンをクリックします。コンピュータ「Sun Fire 15K」に接続ポートを追加するための画面が表示されます。
- 2 ここでは、空の「サーバ」タイプポートを作成するため、接続先のコンピュータとポートを指定する [接続先資産] (SQL名: TargetAsset) および [接続先ポート] (SQL名: TargetPorts) フィールドには何も入力しません。
- 3 [ポートタイプ] (SQL名: Type) フィールドを「サーバ」に設定します。
- 4 [作成] をクリックして、作成を確定します。
- 5 [ポート] タブページに、ポート情報が次のように表示されます。


1

コンピュータ「VECTRA VL 800」でも同じようにしてポートを作成します。


- 1 コンピュータ「VECTRA VL 800」を選択し、詳細画面の [ポート] タブをクリックします。
- 2  ボタンをクリックします。このコンピュータに接続ポートを作成するための画面が表示されます。
- 3 [ポートタイプ] フィールドを「クライアント」に設定し、他のフィールドは空欄のままにしておきます。
- 4 [作成] をクリックして、作成を確定します。
- 5 [ポート] タブページに、ポート情報が次のように表示されます。

1

あとは、これら2つのポートを接続するだけです。これはどちらのコンピュータで実行してもかまいません。

- 1 サーバ「Sun Fire 15K」を選択し、[ポート] タブをクリックします。
- 2 ポート「1」を選択し、 をクリックします。
- 3 [接続先資産] (SQL名: TargetAsset) フィールドでクライアント「VECTRA VL 800」を選択します。
- 4 [接続先ポート] (SQL名: TargetPorts) フィールドでは、ドロップダウンリストでこのコンピュータのすべての空きポートを表示できます。

注意:

 ボタンをクリックして、表示されたポートのリストから直接ポートを選択することもできます。このリストからポートを選択すると、[接続先資産] (SQL名: TargetAsset) フィールドに自動的に接続先コンピュータが入力されます。

- 5 [変更] または [閉じる] をクリックします。

- 6 コンピュータ「Sun Fire 15K」の詳細画面に、接続状況が次のように表示されます。

1-1 (<接続先資産の資産タグ>)

コンピュータ「VECTRA VL 800」の詳細画面にも次のように表示され、2つのコンピュータが相互に接続されていることを確認できます。

1-1 (<接続先資産の資産タグ>)

- 7 これで接続が有効になりました。

コンピュータに直接接続を作成する

注意:

前に作成したコンピュータを複製して接続を作成する場合は、複製したコンピュータの [ポート] タブページのエントリを削除する必要があります。削除するには、エントリを選択し、 ボタンをクリックします。

[資産] テーブルのレコードリストからコンピュータ「SunFire15K」を選択し、その詳細画面の [ポート] タブをクリックします。次に、コンピュータ「SunFire 15K」への接続を作成します。

- ボタンをクリックします。コンピュータ「Sun Fire 15K」に接続ポートを作成するための画面が表示されます。
- [接続先資産] (SQL名: TargetAsset) フィールドを「VECTRA VL 800」に設定します。
- [ポートタイプ] を「サーバ」に設定します。
- [追加] をクリックします。

自動的に次のポートと接続が作成されます。

- コンピュータ「Sun Fire 15K」に「サーバ」タイプのポート
- コンピュータ「VECTRA VL 800」に「クライアント」タイプのポート
- これら2つのポート間の接続

接続に関する追加情報

AssetCenterでは、接続の詳細画面で接続に関する情報を追加できます。資産の詳細画面で、[ポート] タブをクリックして既存の接続を選択し、 ボタンをクリックします。接続の詳細情報が表示されます。[接続] (SQL名: Connection) フィールドを使って、追加情報を定義します。 ボタンをクリックすると、接続の詳細画面が表示されます。

 **注意:**

接続の詳細画面のフィールドには、自動計算機能は関連付けられていません。この画面で値を指定しても、接続に関連する経費に経費明細が作成されることはありません。

接続を管理する

ここでは、接続の管理方法について説明します。内容は次のとおりです。

- 接続数を表示する
- 2つのコンピュータ間の接続を終了する
- 接続しているコンピュータを削除する
- 接続のポート割当てを変更する

接続数を表示する

資産の詳細画面の [ポート] タブページには、コンピュータ資産の接続に関する基本的な情報が表示されます。[最大接続数] (SQL名: sMaxCnxCount) および [現在の接続数] (SQL名: sCnxCount) フィールドは、コンピュータの可能接続数と実際の接続数を示します。接続を追加または削除すると、AssetCenterにより [現在の接続数] (SQL名: sCnxCount) フィールドが更新されます。

 **注意:**


[最大接続数] フィールドの値は、おおよその最大接続数を示します。このフィールドにより自動処理機能がトリガされることはありません。実際の接続数が最大接続数を超えても、接続を追加することができます。

2つのコンピュータ間の接続を削除する

接続を削除するには、次の手順に従います。

- 1 接続している2つのコンピュータ資産のどちらかの資産の詳細画面を表示します。
- 2 [ポート] タブをクリックし、削除する接続を選択します。☒ ボタンをクリックします。
- 3 接続の詳細画面が表示されます。
- 4 [接続先資産] (SQL名: TargetAsset) または [接続先ポート] (SQL名: TargetPorts) フィールドのどちらかの値を消去し、[変更] をクリックします。2つのコンピュータ間の接続が終了します。その結果、次のようになります。
 - 追加の接続情報 ([接続] (SQL名: Connection) フィールドで指定した情報) が消去されます。
 - 接続に使われていたポートが解放されます。

 注意:

接続している片方のコンピュータの詳細画面の [ポート] タブページで  ボタンをクリックすると、接続に使われているポート自体も削除されます。

接続しているコンピュータ資産を削除することによる影響

接続したコンピュータ資産を削除すると、AssetCenterにより次の処理が実行されます。

- コンピュータ資産に関連するすべての接続を削除する。
- コンピュータ資産のすべてのポートを削除する。
- 削除したコンピュータ資産に接続されていたすべてのコンピュータ資産のポートを解放する。

接続のポート割当てを変更する

次の方法で、接続ポートの割当てを変更できます。

- 完全にポートを解放します。解放されたポートは新しい接続に使用できます。
- ポートを別のポートに接続します。この場合は、元の接続先ポートが解放され、新しい接続に使用できるようになります。

4 電話機

AssetCenterでは、電話機は「ポートフォリオ品目」として処理されます。電話機を資産として管理する場合は、[電話機]テーブルにレコードを作成することもできます。

電話機と機能

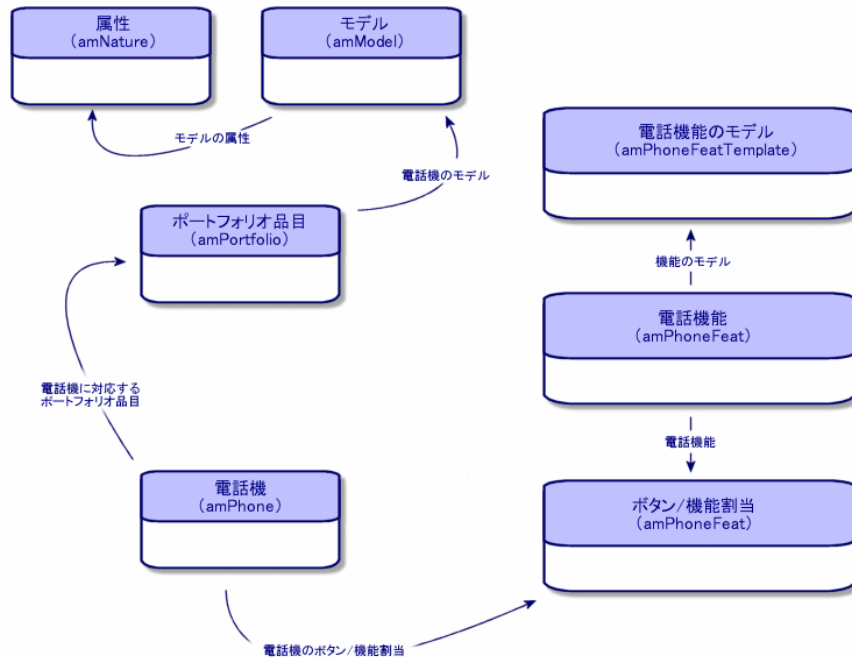
電話機の説明にはすべての管理タイプを使用できます（▶個別管理（資産別）[献 14]）。

電話機管理で使用されるAssetCenterのテーブルは以下のとおりです。

- [属性] テーブル
このテーブルでは、ポートフォリオ品目のモデルは、[資産]テーブルと[電話]テーブルにレコードを作成することを指定します。
- [モデル] テーブル
このテーブルでは、[資産]テーブルと[電話機]テーブルにレコードを作成するポートフォリオ品目のモデルを作成します。
- [電話機] テーブル
このテーブルには、電話機に対応するレコードが含まれます。
- [ボタン/機能割当] テーブル
このテーブルでは、電話機のボタンに機能を割り当てます。
- [電話機能のモデル] テーブル
このテーブルでは、電話機能のモデルを作成します。

■ [電話機能] テーブル

このテーブルでは、会社の電話機で使用する電話機能のリストを表示できます。



電話機の管理

AssetCenterで電話機を管理するには、以下の作業を実行します。

- [電話機] テーブルに電話機を登録する。
- 機能をボタンに関連付ける。

以下の方法で、[電話機] テーブルのレコードの詳細画面を表示できます。

- 電話を表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/テレフォニー/電話機] リンク)。
- [資産] テーブルで電話機に対応するレコードを選択して、[電話機] タブページをクリックします。

 **警告:**

電話機のモデルの属性で、[オーバーフローテーブル]フィールドで[電話機]を選択されていない限り、[電話機]タブページは表示されません。

電話機を作成する

電話機を作成するには、次の手順に従います。

- 1 電話機の属性を作成します。[作成]フィールドで[ポートフォリオ品目]を選択し、[オーバーフローテーブル]フィールドで[電話機]を選択します。
 - ▶ [ポートフォリオ品目の属性を作成する \[献 26\]](#)
- 2 電話機のモデルを作成します。
- 3 電話機に対応するレコードを[資産]テーブルで作成します。
このレコードは、[電話機]テーブルにもレコードを作成します。
- 4 [電話機]タブをクリックします。
- 5 電話機の内線番号を入力します。
- 6 必要に応じて、[ボイスメール]オプションと[スピーカ]オプションを選択します。
- 7 転送先の電話機を[転送先]リンクに入力します。このリンクは、[電話機]テーブルの他のレコードに向けられています。
- 8 [コールラインID]フィールドに電話機のCLI(コマンドラインインタフェース)番号を入力します。
- 9 [作成]をクリックして、作成を確定します。

機能をボタンに関連付ける

ある機能をボタンに関連付ける前に、まず機能のモデルおよび機能自体を作成する必要があります。

機能のモデルを作成する

 **注意:**

この操作を実行できるのは、Windowsクライアント使用時のみです。

機能のモデルを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [管理/画面一覧]メニューで、電話機能のテンプレートのリストを表示します。
- 2 [説明]フィールドに入力して、機能のモデルを作成します。

機能を作成する



注意:


この操作を実行できるのは、Windowsクライアント使用時のみです。

機能を作成するには、次の手順に従います。

- 1 [管理 / 画面一覧] メニューで、電話機能のリストを表示します。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 [説明] フィールドに入力します。
- 4 上記で作成した電話機能のモデルを [モデル] リンクで選択します。
- 5 特定のコードを使って機能をオン / オフにできる場合は、[トグル動作] オプションを選択します。また、このコードを選択すると表示されるフィールドに適切なコードを入力します。
- 6 機能を使用するためにIDコードが必要な場合は、[IDコード要] オプションを選択します。

機能をボタンに関連付ける

以下の方法で、機能をボタンに関連付けます。

- 1 ポートフォリオ品目を表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / ポートフォリオ品目] リンク)。
- 2 電話機のレコードを選択します。
- 3 [電話機] タブをクリックします。
- 4 [機能] タブページを選択します。
- 5  をクリックします。
- 6 機能が割り当てられている最初のボタンの番号を [最初のボタン] フィールドに入力します。最初のボタンは通常「1」または「0」です。最初のボタンが「0」の場合、機能が割り当てられているボタンの合計数は、「n + ボタン 0」です。
最初のボタンが「0」の場合、ボタン「5」は6番目のボタンに相当します。
- 7 [ボタン数] フィールドに、機能を割り当てることのできるボタンの数を入力します。[最初のボタン] フィールドの値が「0」の場合、ボタン「5」は6番目のボタンに相当します。
- 8 [用途] リンクでボタンに関連付ける機能を選択します。

5 作業指示とプロジェクト

ポートフォリオ品目は、作業指示の対象となり得ます（例：メンテナンス）。また、プロジェクトでポートフォリオ品目を使用することもあります（例：長期研修プログラムでコンピュータを使用する）。

作業指示

作業指示は、問題を解決するためにポートフォリオ品目に対して実行される処置です。修理、ユーザの援助、インストール、移動などがあります。

ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / 拡張ポートフォリオ / 作業指示] リンクをクリックして、作業指示のリストを表示します。

作業指示に追加業務を関連付けるなど、階層構造（ツリー構造）を設定して管理することができます。作業指示には複数の追加業務を割り当てることができます。作業指示は、テンプレートに基づいて作成できます。このテンプレートでは、一般的な作業指示または標準的な作業指示手順を定義します。テンプレートで定義された情報は、作業指示の詳細情報に使用されます。

追加業務も作業指示とみなされます。追加業務として定義することで1つの作業指示をさらに基本的な作業指示に細分化することができます。1つの作業指示を完了するには、その作業指示を構成するすべての追加業務を実行する必要があります。

作業指示の追加業務は、1つずつ、または複数を同時に実行できます。[作業順序]（SQL名：!SequenceNumber）フィールドで、追加業務の順序を指定できます。このフィールドから次のことがわかります。

- 2つの作業指示に同じ順番が設定されている場合は、2つの作業指示を同時に実行できることを示しています。
- 数値が小さいほど、作業指示および追加業務の優先順位が高いことを示します。

 **注意:**

[作業順序] (SQL名: ISequenceNumber) フィールドは、AssetCenterの自動処理機能にはリンクしていません。このフィールドは、作業指示の実行順をユーザに示すために使います。

作業指示のタイプ

作業指示の詳細画面の [全般] タブページにある [タイプ] (SQL名: seType) フィールドは、作業指示のタイプを示します。このフィールドは、システムのリストデータに関連付けられています。

このフィールドで選択した作業指示のタイプによって、作業指示の詳細画面の [トラッキング] タブページの内容が次のように異なります。

内部メンテナンス

[トラッキング] タブページ / [技術者] サブタブページの [内部技術者] (SQL名: Technician) フィールドと [グループ] (SQL名: EmplGroup) フィールドで、技術者とグループを指定できます。

契約メンテナンス

一般に、契約内で実行されるすべての作業指示用に、請求書は発行されません。

- [トラッキング] タブページ / [技術者] サブタブページ / [契約] (SQL名: Contract) フィールドで、作業指示に関連する契約を選択できます。このフィールドのドロップダウンリストには、作業指示の対象となるポートフォリオ品目に関連する契約のみが表示されます。
- [トラッキング] タブページ / [技術者] サブタブページの [外部技術者] (SQL名: Contact) フィールドと [サプライヤ] (SQL名: Supplier) フィールドで、技術者と会社を選択できます。[サプライヤ] (SQL名: Supplier) フィールドに先に入力すると、[外部技術者] (SQL名: Contact) フィールドのドロップダウンリストには、その会社の技術者名 (連絡先) のみが表示されます。

契約外メンテナンス

このタイプの作業指示は、既存のメンテナンス契約の範囲を超える作業指示か、または契約していない会社によって実行される作業指示です。一般に、このような場合は請求書が発行されます。

- 既存のメンテナンス契約の範囲を超える作業指示の場合は、[トラッキング] タブページ / [技術者] サブタブページ / [契約] (SQL名: Contract) フィールドで契約を指定できます。このフィールドのドロップダウンリストには、作業指示の対象となるポートフォリオ品目に関連する契約のみが表示されます。
- 作業指示の詳細画面にある[トラッキング] タブページ / [技術者] サブタブページ / [外部技術者] (SQL名: Contact) フィールドで、すべての業者の連絡先リストから技術者を選択できます。[サプライヤ] (SQL名: Supplier) フィールドに先に入力した場合は、その会社だけの連絡先リストから選択できます。

作業指示のプロセス

作業指示のライフサイクル

作業指示のライフサイクルは、次の通りです。

図 5.1. 作業指示のライフサイクル



このサイクルの各過程は、特定の日付に発生するか、または予定された日に実行されます。特定の段階に進むと、[ステータス] (SQL名: seStatus) フィールドが変更します。


表 5.1. 作業指示時のステータス

段階	ステータス
問題発生への報告 (作業指示依頼の通知)	[報告済]
作業指示の開始	[進行中]
作業指示の終了	[クローズド]

作業指示の詳細画面の[トラッキング] タブページ / [スケジュール] サブタブページでは、作業指示を依頼した日付、開始予定日、実際の作業開始日など、様々な段階の日付を指定できます。

作業指示のステータスと自動処理機能

作業指示の詳細画面上部にある [ステータス] (SQL名: seStatus) フィールドには、その作業指示のステータスが表示されます。このフィールドは、作業指示伝票の [トラッキング] タブページ / [カレンダー] サブタブページで指定された日付や、ユーザがコマンドボタンをクリックして実行したアクションによって、自動的に計算されます。

- デフォルトでは、作業指示のステータスは [報告済] になります。
- [開始予定日] (SQL名: dtSchedFixStart) フィールドに入力すると、ステータスは [作業日確定済] に変わります。
- 次の場合は、ステータスが [進行中] に変わります。
 - [作業開始日] (SQL名: dtActualFixStart) フィールドに入力した場合。
 - ユーザが  ボタンをクリックした場合。
 - 作業指示のいずれかの追加業務のステータスが [進行中] になった場合。
- 次の場合は、作業指示のステータスが [クローズド] に変わります。
 - ユーザが [クローズ] ボタンをクリックした場合。
 - 作業指示のすべての追加業務のステータスが [クローズド] になった場合。

作業指示のトラッキング

作業指示の詳細画面の [トラッキング] タブページを使うと、作業指示のスケジュールと実行を正確に管理できます。

このタブページは、さらに次のタブページに分かれています。

- [技術者] タブページ: 作業指示のタイプ、作業指示の担当者に関する情報を入力できます。
- [追加業務] タブページ: 作業指示を複数の追加業務に分割して、階層構造にすることができます。これらの追加業務は、各追加業務の [作業順序] (SQL名: lSequenceNumbe) フィールドの値に従って、同時または順番に実行することもできます。
- [カレンダー] タブページ: 作業指示の実行スケジュールを入力します。解決予定日、実際の作業日、業者に連絡した日付 ([契約メンテナンス] または [契約外メンテナンス] タイプの契約の場合) などを指定できます。作業指示の各作業の実行日と制限時間を計算するのに使用する業務用カレンダーも選択できます。
- [クローズ] タブページ: 作業指示の終了に関連する情報を入力します。

作業指示の管理



注意:

この操作を実行できるのは、Windowsクライアント使用時のみです。


使いやすさのために、[作業指示]テーブルの[資産]フィールドに関連するリンクをカスタマイズし、仮想的な階層を作成することをお勧めします。

資産に関連するリンクの表示をカスタマイズするには、以下の手順に従います。

- 1 [資産]フィールドを右クリックします。
- 2 [リンクエディタのプロパティ/グループ/グループ分けを選択]を選択します。
- 3 表示されるウィンドウで、資産に関連するモデルを選択します([モデル]リンク)。

資産のリストが、関連するモデルに応じて階層的に表示されます。

問題が報告されたら、次の2つの方法のいずれかを使って作業指示レポートを作成します。

- 作業指示のリストを表示し(ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/拡張ポートフォリオ/作業指示]リンク)、[新規作成]ボタンをクリックします。
- 資産の詳細画面で[メンテナンス]タブページを選択してからをクリックし、作業指示レポートを追加します。

技術者は、適切なフィルタ([技術者](SQL名: Contact)、[会社](SQL名: Supplier)、[メンテナンス業者番号](SQL名: MaintNumber)、[ステータス](SQL名: seStatus)、[優先度](SQL名: Priority)などのフィールドを組み合わせたフィルタ)を使ってビューまたは作業指示リストを表示し、自分に関係のある作業指示を見つけることができます。

管理者は、次のようなビューやフィルタを使うと、進行中の作業を定期的に分析できます。

- まだ予定が組まれていない作業指示: ステータス = [報告済]
- 遅れている作業指示: ステータス = [作業日確定済]と[開始予定日](SQL名: dtSchedFixStart) < 今日の日付
- 進行中の作業指示: ステータス = [進行中]
- ステータスが[進行中]の、技術者、サプライヤ、または契約別作業指示リスト

管理者は、ビューまたはフィルタを使って、完了した作業を定期的に分析できます。

- 見込作業時間と実作業時間の差
- 依頼内容の解決に要した時間の分析
- メンテナンス業者に連絡した日付と最初に作業指示を依頼した日付の差(契約に指定されている日付との比較)

プロジェクト

プロジェクトでは、プロジェクトに関わる資産や従業員のグループに関する情報を入力できます。

プロジェクトを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [ポートフォリオ/プロジェクト]メニューを選択して、プロジェクトのリストを表示します。
- 2 [新規作成]ボタンをクリックして、新しいプロジェクトを作成します。
- 3 [全般]タブページのフィールド、特に、プロジェクトの終了日を入力し、必要に応じてアラーム🔔を設定します。
- 4 [資産]タブページで、プロジェクトで使う資産を追加します。
- 5 [従業員]タブページで、プロジェクトに関連する従業員を指定します。
- 6 後日、プロジェクトに他の資産を追加する必要がある場合は、追加する資産の詳細画面の[プロジェクト]タブページ、またはプロジェクトの詳細画面の[資産]タブページで追加します。
- 7 現在のプロジェクトのステータスを定期的にチェックします。フィルタとビューを使うと、この作業を簡単に行うことができます。[開始] (SQL名: dStart)、[終了] (SQL名: dEnd)、および[ステータス] (SQL名: Status) フィールドを組み合わせると、現在進行中のプロジェクトや遅れているプロジェクトなどを表示できます。

6 調整項目

調整項目とは、特定のレコードの1つまたは複数のフィールドを調整するためのレコードを指します。

調整項目とターゲット項目

調整項目は、1つまたは複数のターゲット項目のフィールドを調整します。以下のタイプの調整項目があります。

- ポートフォリオ品目
- 作業指示
- 契約
- 研修
- ケーブル

ターゲット項目は、調整項目に関連付けられています。

例：レコード「モニタ」（調整項目）は、これにリンクされているコンピュータ（ターゲット項目）のモニタ数を更新します。

調整項目のモデルで調整タイプを指定します。以下の3つの調整タイプが使用可能です。

- 追加
例：ポートフォリオで256 MBのRAMを作成すると、このRAMがインストールされているコンピュータの[メモリ]フィールドの値に256が加算されます。
- 削減

例：ある資産に対して10時間の作業指示が作成されると、同資産の最初の作業指示の [期間] フィールドの値から「10」が引かれます。

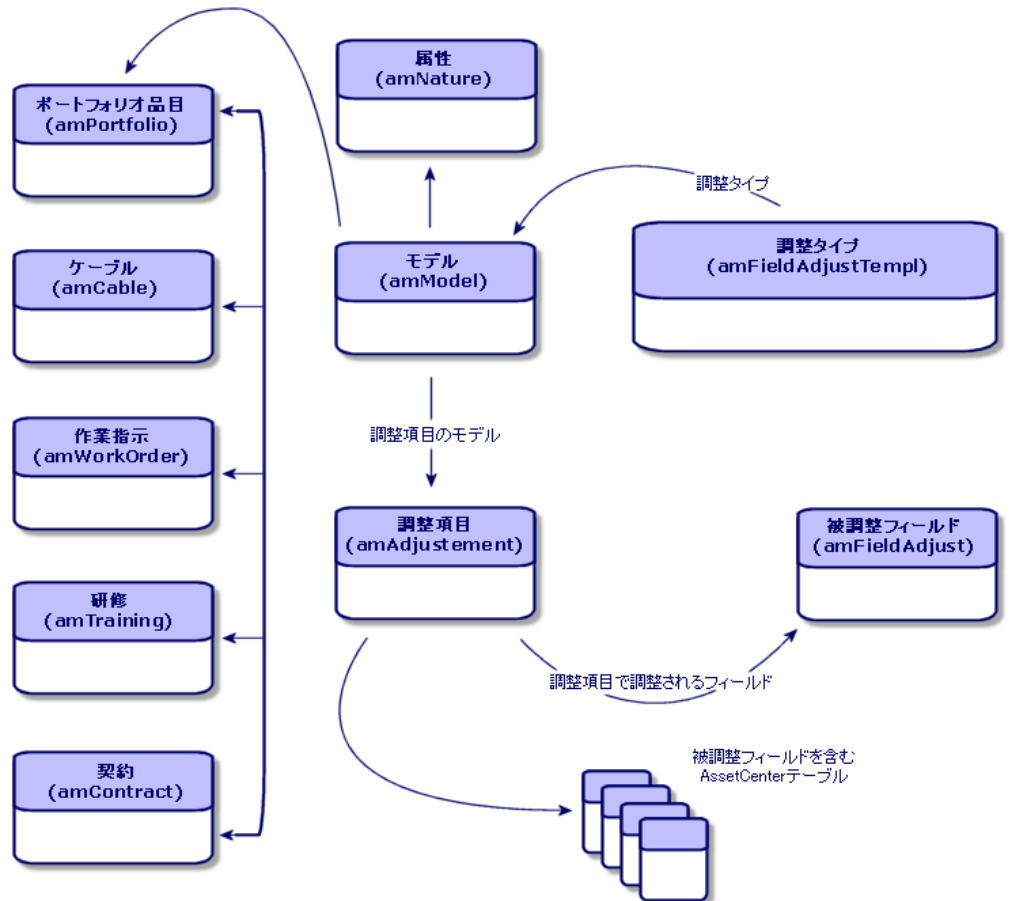
- 交換

例：資産に関連する契約を新たに作成すると、古い契約が交換されます。

調整プロセスで主に使用されるテーブルは、以下のとおりです。

- [属性] テーブル (amNature)
このテーブルでは、調整項目のモデルの属性を定義します。
- [モデル] テーブル (amModel)
このテーブルでは、調整項目のモデルを定義します。調整タイプはこれらの各モデルを定義しています。
- [調整タイプ] テーブル (amFieldAdjustTempl)
調整タイプには、以下の情報が含まれます。
 - 調整項目のテーブル (ポートフォリオ品目、作業指示、契約、研修、ケーブル)
 - 調整項目からターゲット項目へのリンク (このリンクが調整をトリガします)
例：調整項目をその親項目にリンクする (プリンタをコンピュータにリンクする)
 - ターゲット項目で変更するフィールド
ターゲット項目のレコードに含まれているフィールド、またはターゲット項目のレコードに直接 / 間接的にリンクされているフィールドを選択できます。
 - フィールドを調整する値を指定するスクリプト
- [被調整フィールド] テーブル (amFieldAdjustment)
被調整フィールドのレコードには、以下の情報が含まれています。
 - 調整日
 - 調整前の値
 - 調整後の値
 - ターゲットレコードのテーブルからアクセス可能な一連のリンク
- [調整項目] テーブル (amAdjustment)
このテーブルには、データベースに作成された調整項目が含まれます。
- [ポートフォリオ]、[ケーブル]、[作業指示]、[研修]、[契約] テーブル
これらのテーブルには、調整項目になり得る項目のレコードが含まれます。
- AssetCenterのテーブルすべて

これらのテーブルすべてに調整のターゲット項目が含まれます。直接リンクまたは間接リンクを使って、調整項目のレコードは、AssetCenterの全テーブルの全フィールドを調整できます。



調整項目を使用する

調整項目を使ってフィールドを調整するには、以下の手順を踏む必要があります。

- 1 調整項目のモデルを作成する。
- 2 このモデルで調整タイプを定義する。
- 3 調整項目を作成する。

- 調整をトリガするリンクを作成する。

調整項目のモデルを作成する

- ▶ ポートフォリオ品目のモデルを作成する [献 28]




注意:

属性で何も作成しないと定義されているモデル（属性の詳細画面の [作成] フィールドで [なし] が選択されている）以外のすべてのモデルが調整項目のモデルになり得ます。

調整タイプを定義する

調整項目があるフィールドを調整するよう設定するためには、調整項目のモデルで、同フィールドの調整タイプを定義する必要があります。調整タイプを定義するには、次の手順に従います。

- 1 モデルを表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / モデル] リンク）。
- 2 調整項目のモデルを選択します。
- 3 [調整タイプ] タブをクリックします。
- 4  をクリックします。
- 5 [被調整フィールド] フィールドに以下の値を入力します。
 - ターゲット項目へのリンク（フィールドの調整をトリガするリンク）
 - 被調整フィールドを指定する完全パス（リンクまたは一連のリンク）

```
Parent.Computer.LMemorySizeMb
```

例：ポートフォリオの調整項目に対しては、[被調整フィールド] フィールドに以下のように入力します。

「Parent」は調整をトリガするリンクです。具体的には、調整項目を [ポートフォリオ品目] テーブルの親レコード（ターゲット項目）にリンクします。

「Computer.LMemorySizeMb」は、被調整フィールド [LMemorySizeMb] へのパスを指定します。

- 6 [処理] フィールドで調整タイプ（交換、追加、または削減）を選択します。
- 7 [ソース] フィールドに調整値を返すスクリプトを入力します。

```
RetVal = [Model.fv_memoire_barrette]
```

例：追加の場合、このスクリプトは、調整項目のモデルの

「fv_memory_module」フィールドの値が被調整フィールドの値に追加されるよう指定します。

- 8 [追加] ボタンをクリックして、調整タイプの作成を確定します。

調整項目を作成する

▶ 資産を作成する [献 30]

ここでは、資産に対応するポートフォリオ品目の作成方法を説明します。

ポートフォリオ品目以外の調整項目を作成する方法については、その他のマニュアルを参照してください（例えば、契約が調整項目となる場合は、マニュアル『契約』を参照します）。

調整をトリガするリンクを作成する

フィールドを調整するには、調整タイプでリンクを作成する必要があります。

調整項目がポートフォリオ品目であり、調整をトリガするリンクが [親レコード]（SQL名：**Parent**）リンクである場合、以下の操作を実行します。

- 1 [ポートフォリオ品目] テーブルから調整項目を選択します。
- 2 [全般] タブをクリックします。
- 3 [親レコード] リンクを入力または作成します。
- 4 ターゲット項目のフィールドが適切に調節されたことを確認します。

フィールドを調整する - 例

ここでは、調整項目（256MBのRAM）を使って、コンピュータレコードの [メモリ] フィールドを調整する方法を説明します。

[ポートフォリオ品目] テーブルの [親レコード]（SQL名：**Parent**）リンクを使って、コンピュータとRAM間のリンクを作成すると、コンピュータの [メモリ] フィールド（SQL名：**IMemorySizeMb**）の値に256MBのメモリが追加されます。

例の詳細


調整項目	[ポートフォリオ品目] テーブルの「256MBのRAM」レコード
ターゲット項目	[ポートフォリオ品目] テーブルの「ターゲットコンピュータ」レコード
被調整フィールド	「ターゲットコンピュータ」レコードの [メモリ]（SQL名： IMemorySizeMb ）フィールド
調整タイプ	RAMの値をコンピュータのメモリに追加

1-ターゲット項目を作成する


- 1 属性を表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / 属性] リンク)。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 [名前] (SQL名: **Name**) フィールドに「コンピュータ」と入力します。
- 4 [オーバーフローテーブル] (SQL名: **seOverflowTbl**) フィールドで [コンピュータ] を選択します。
属性の作成方法: ▶ [コンピュータの属性を作成する \[献 53\]](#)
- 5 [作成] をクリックします。
- 6 モデルを表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / モデル] リンク)。
- 7 [新規作成] をクリックします。
- 8 [名前] (SQL名: **Name**) フィールドに「ターゲットコンピュータ」と入力します。
- 9 [属性] (SQL名: **Nature**) リンクで「コンピュータ」を選択します。
モデルの作成方法: ▶ [コンピュータのモデルを作成する \[献 54\]](#)
- 10 [作成] をクリックします。
- 11 ポートフォリオ品目を表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / ポートフォリオ品目] リンク)。
- 12 [新規作成] をクリックします。
- 13 [モデル] (SQL名: **Model**) リンクで「ターゲットコンピュータ」を選択します。
- 14 [作成] をクリックします。
オーバーフローテーブル: ▶ [オーバーフローテーブル \[献 16\]](#)
コンピュータの作成方法: ▶ [コンピュータを作成する \[献 55\]](#)
モデルがコンピュータであるポートフォリオ品目を作成すると、[コンピュータ] テーブルにもレコードが同時に作成されます。
- 15 [コンピュータ] タブにある [ハードウェア] サブタブを選択します。
- 16 [メモリ] (SQL名: **IMemorySizeMb**) フィールドに「256」と入力します。
- 17 [変更] をクリックします。

2-任意管理項目「RAM」を [モデル] テーブルに追加する

- 1 任意管理項目を表示します (ナビゲーションバーの [管理 / 任意管理項目 / 任意管理項目] リンク)。



- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 [タイトル] (SQL名: **TextLabel**) フィールドに「RAM」と入力します。
- 4 [入力] タブをクリックします。
- 5 [入力タイプ] (SQL名: **seDataType**) フィールドで [数値] を選択します。
- 6 [作成] をクリックします。
- 7 [パラメータ] タブをクリックします。
- 8  をクリックします。
- 9 [テーブル] (SQL名: **TableName**) フィールドで「モデル (amModel)」を選択します。
- 10 [制限] タブを選択します。
- 11 [使用可能] (SQL名: **seAvailable**) フィールドで [はい] を選択します。
- 12 [追加] をクリックします。
- 13 任意管理項目のリストが再度表示されます。
- 14 [変更] をクリックします。

3-調整項目を作成する

- 1 属性を表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / 属性] リンク)。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 [名前] (SQL名: **Name**) フィールドに「調整」と入力します。
- 4 [作成] (SQL名: **seBasis**) フィールドで「ポートフォリオ品目」が選択されていることを確認します。
属性の作成: [ポートフォリオ品目の属性を作成する](#) [献 26]。
- 5 [作成] をクリックします。
- 6 モデルを表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / モデル] リンク)。
- 7 [新規作成] をクリックします。
- 8 [名前] (SQL名: **Name**) フィールドに「256 MBのRAM」と入力します。
- 9 [属性] (SQL名: **Nature**) リンクで「調整」を選択します。
- 10 [任意管理項目] タブをクリックします。
- 11  をクリックします。
- 12 表示されるウィンドウ内の **memory_module** 属性 (**fv_ram**) を選択します。
- 13 [OK] をクリックします。
- 14 この任意管理項目の値を「256」に指定します。
- 15 [作成] をクリックします。
- 16 ポートフォリオ品目を表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / ポートフォリオ品目] リンク)。
- 17 [新規作成] をクリックします。

- 18 [モデル] (SQL名: **Model**) リンクで「256 MBのRAM」を選択します。
- 19 [作成] クリックします。

4-調整項目のモデル用の調整タイプを作成する

- 1 モデルを表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/モデル] リンク)。
- 2 モデル「256 MBのRAM」を選択します。
- 3 [調整タイプ] タブをクリックします。
- 4  をクリックします。
- 5 [被調整フィールド] (SQL名: **TargetField**) フィールドに「Parent.Computer.IMemorySizeMb」と入力します。
 を使って、[コンピュータ] テーブルの [メモリ] (SQL名: IMemorySizeMb) フィールドへの同リンクを見つけることも可能です。
- 6 スクリプトの [ソース] (SQL名: **memScript**) フィールドに「RetVal=[Model.fv_memoire_barrette]」と入力します。
- 7 [処理] (SQL名: **seOperation**) フィールドで [追加] を選択します。
- 8 [追加] をクリックします。
- 9 [変更] をクリックします。


5-調整をトリガする

- 1 ポートフォリオ品目を表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/ポートフォリオ品目] リンク)。
- 2 「256 MBのRAM」レコードを選択します。
- 3 [全般] タブをクリックします。
- 4 [親レコード] リンクで、調整の対象となる「ターゲットコンピュータ」レコードを選択します。
- 5 [変更] をクリックします。

6-調整を確認する

- 1 コンピュータを表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/IT/コンピュータ/コンピュータ] リンク)。
- 2 「ターゲットコンピュータ」レコードを選択します。
- 3 [ハードウェア] タブをクリックします。
- 4 [メモリ] (SQL名: **IMemorySizeMb**) フィールドの値が「512」(256+256)であることを確認します。

7- 被調整フィールドに関する詳細情報

- 1 コンピュータを表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / IT / コンピュータ / コンピュータ] リンク）。
- 2 「ターゲットコンピュータ」レコードを選択します。
- 3 [被調整フィールド] タブをクリックします。
- 4 [メモリ]（SQL名：IMemorySizeMb）フィールドに対応するレコードを選択します。
- 5  をクリックして、被調整フィールドに関する以下のような詳細情報を確認します。
 - 調整日
 - 調整前の値
 - その他

7 用語解説

本章では、ポートフォリオ管理で使用される用語を解説します。

 注意:

下記の用語は、あいうえお順では記載されていません。

ポートフォリオ品目

属性

[属性] テーブルのレコードは、モデルを基にして作成されるレコードのタイプを特定します。モデルを作成する際には、これの基になる属性を指定しなくてはなりません。

以下のタイプのレコードのモデルに対応する属性が存在します。

- ポートフォリオ品目
- 作業指示
- 契約
- 研修
- ケーブル

[属性] テーブルで属性を作成するときに特定のパラメータを設定すると、この属性を基にするモデルに影響が及びます。例えば、[管理条件] (SQL名:

seMgtConstraint) フィールドで [個別管理しない] を選択すると、[資産] テーブルに記録されないポートフォリオ品目のモデルを作成できます。

モデル

[モデル] テーブルのレコードを使うと、以下のテーブルにレコードを作成できます。

- [ポートフォリオ品目] テーブル
ポートフォリオ品目が作成されると、以下のオーバーフローテーブルにもレコードが同時作成される場合があります。
 - [資産] テーブル
 - [コンピュータ] テーブル
 - [電話機] テーブル
 - [ソフトウェアのインストール] テーブル
- [作業指示] テーブル
- [契約] テーブル
- [研修] テーブル
- [ケーブル] テーブル

ポートフォリオ品目を作成する時、この品目の基になるモデルを必ず指定する必要があります。モデル用に入力したデータは、ポートフォリオ品目のレコードに自動的にコピーされます。例えば、コンピュータのプロセッサのタイプ、適用される税率、契約の期間などの情報がコピーされます。

[モデル] テーブルの階層構造に基づいて、ポートフォリオは構成されます。一般的なモデルをまず作成し、これにより詳細な従属モデルを含めるようお勧めします (例 : プリンタ / レーザプリンタ / Laserjet 8000DN)

ポートフォリオ品目

ポートフォリオ品目はその基になるモデルの特質を継承します。各ポートフォリオ品目の価値に応じて、モデルの属性で管理条件を指定します。管理条件を指定すると、資産、トラッキングするロット、またはトラッキングしないロットとしてポートフォリオ品目が作成されます。ポートフォリオ品目の基になるモデルの属性でオーバーフローテーブルを指定すると、このポートフォリオ品目を作成する時に、オーバーフローテーブルにもレコードが同時作成されます。以下のオーバーフローテーブルが存在します。

- [資産] テーブル
- [コンピュータ] テーブル
- [電話機] テーブル
- [ソフトウェアのインストール] テーブル

資産

[資産]テーブルのレコードは、高価値のポートフォリオ品目のことを指し、個別にトラッキングされます。各資産には2つのレコードがリンクされます（[ポートフォリオ品目]テーブルのレコードと[資産]オーバーフローテーブルのレコード）。ポートフォリオ品目の基になるモデルの属性の画面にある[管理条件]（SQL名：seMgtConstraint）フィールドで[固有資産タグ]を選択すると、ポートフォリオ品目が作成されるのと同時に、[資産]テーブルにもレコードが作成されます。

資産は必ずポートフォリオ品目ではありませんが、ポートフォリオ品目は必ずしも資産であるとは限りません。

オーバーフローテーブル

あるテーブルにレコードが作成されると、別のテーブルにもレコードが同時に作成される場合があります。後者のテーブルを、「オーバーフローテーブル」と呼びます。

AssetCenterでは、ポートフォリオ品目の基になるモデルの属性を作成する際に、オーバーフローテーブルを指定できます。[ポートフォリオ品目]テーブルにレコードを作成すると、オーバーフローテーブルにもレコードが同時作成されます。以下のオーバーフローテーブルが存在します。

- [資産]テーブル
- [コンピュータ]テーブル
- [電話機]テーブル
- [ソフトウェアのインストール]テーブル

ロット

ロットは複数の同一な品物から構成されています。ロットの数量は、品数（椅子100脚のロット）で表記される場合と、単位（砂1トンのロット）で表現される場合があります。1ロットを作成すると、リンクされるレコードが2つ作成されます。つまり、[ポートフォリオ品目]テーブルと[資産]テーブルの各々にレコードが作成されます。ポートフォリオでは1つのロットを複数のロットに分割することができます。例えば、分割されたロットを異なる場所に割り当てるのが可能です。分割が行われると、2番目のロットのレコードが作成されます。元のロットのレコードの数量は、2番目のロットに含まれる数量分減少します。例えば、椅子100脚のロットから椅子10脚が別の部署に移動されたと仮定します。元のロットの数量は90脚に減少し、作成された2番目のレコードには椅子10脚が含まれます。

トラッキングしないロット

トラッキングしないロットは、[資産]テーブルで対応するレコードを持ちません。トラッキングしないロットを作成するには、ロットの属性で管理条件「個別管理しない」を選択する必要があります。低価値のポートフォリオ品目（消耗品やサプライ品）をトラッキングしないロットとして指定します。トラッキングしないロットに関するトラッキング情報は記録されません。トラッキングしないロットをトラッキングするロットに変換するには、[資産]テーブルに対応するリンクレコードを作成します（[ポートフォリオ品目]テーブルで[タグ]ボタンを使用する）。

消耗品

消耗品はポートフォリオ品目です。消耗品を作成するためには、基になるモデルの属性で[消耗品]オプションを選択します。

管理条件

ポートフォリオ品目の管理条件は、その属性のレコードで指定されます。どの管理条件を選択するかにより、ポートフォリオ品目に資産タグが割り当てられるかどうかが決まります。資産タグの付いたポートフォリオ品目は、[ポートフォリオ品目]テーブルと[資産]テーブルに自動的に登録されます。

3種類の管理条件が用意されています。

- 固有資産タグ
この制限条件は、ポートフォリオの資産に適用されます。資産には固有資産タグが割り当てられます。
- 資産タグ
この制限条件は、トラッキングするロットに適用されます。トラッキングするロットが作成されると、これに資産タグが割り当てられます。あるロットとその従属ロットは同一の資産タグを共有します（親ロットと従属ロットは、[資産]テーブルで同じレコードを参照します）。
- 個別管理しない
この制限条件は、トラッキングしないロットに適用されます。トラッキングしないロットには作成時に資産コードが割り当てられません。トラッキングしないロットは、[資産]テーブルでレコードを参照しません。トラッキングしないロットに資産コードを割り当てて、トラッキングするロットに変換することは常時可能です。

管理タイプ

AssetCenterでは、ポートフォリオ品目の管理タイプが3つ存在します。

- 個別管理

資産用に使用されます。各資産は個別にトラッキングされます。

- 一括管理
ロットに使用されます。ロットに含まれる品物は、[資産]テーブルで個別ではなく、ロット単位でトラッキングされます。例えば、ロットの取得価格は、ロットに含まれる各品物の1つ1つの価格ではなく、ロット全体の価格です。
- 非個別管理
トラッキングしないロットに使用されます。トラッキングしないロットは、[ポートフォリオ品目]テーブルのみに記録されます。しかし、トラッキングしないロットに資産タグを割り当てると、トラッキングするロットとして集合的に管理できます。また、ロットが1品しか含まない場合は、資産として個別に管理することも可能です。

トラッキング

[資産]テーブルのレコードは以下の3つの分野でトラッキングされます。

- 技術情報のトラッキング
例：コンピュータのハードウェア情報
- 財務情報のトラッキング
例：資産の減価償却方法
- 契約情報
例：サーバのメンテナンス契約

在庫

在庫は、割当待ちのポートフォリオ品目が含まれます。AssetCenterに在庫規則を関連付けると、再補充が必要な場合に購入依頼が自動的にトリガされます。

割当

ポートフォリオ品目の割当は、ポートフォリオにおけるポートフォリオ品目のステータスを指定します。AssetCenterでは次の割当ステータスが使用可能です：
[使用中]、[在庫中]、[除却済(または消費済)]、[納品待ち]、[メンテナンスのため返却]、[サプライヤに返却]、[紛失]

数量

数量はロット単位で管理するポートフォリオ品目の特徴の1つです。ロットの数量は、品数（椅子100個のロット）で表記される場合と、単位（砂1トンのロット）で表現される場合があります。ロットのモデルを使用すると、数量を指定しつつ異なる複数のロットを作成できます。

プロジェクト

プロジェクト

プロジェクトは、ポートフォリオ品目や従業員に関連付けられています（例：ある部署を複数の部署に分割する）。AssetCenterでは、企業のあらゆるプロジェクトを正確にトラッキングできます。プロジェクトは、契約や作業指示を必要とすることもあります。

インデックス

- オーバーフロー - テーブル, 16
- コンピュータ, 53
 - オーバーフローテーブル, 18
 - モデル, 54
 - 属性, 53
- コンピュータの標準セット, 56
- ソフトウェア
 - オーバーフローテーブル, 18
- ソフトウェアのインストール
 - オーバーフローテーブル, 18
- テーブル
 - オーバーフローテーブル, 16
 - 定義, 87
 - メインテーブル, 14
- データモデル, 16
- トラッキング, 89
- トラッキングしないロット, 37
 - トラッキングするロットへの変換, 39
 - 作成, 37
 - 定義, 88
 - 非個別管理, 14
 - 分割, 38
- プロジェクト, 74
 - 定義, 90
- ポート, 58
 - 変更, 64
- ポートフォリオ品目, 25-52, 15
 - (参考 トラッキングしないロット)
 - (参考 モデル)
 - (参考 ロット)
 - (参考 在庫)
 - (参考 資産)
 - (参考 属性)
- オーバーフローテーブル, 16
- コンテキスト情報の指定, 44, 20
- トラッキング, 20
- 移動, 43
- 管理, 13
 - タイプ, 13
 - 一括管理, 14
 - 個別管理, 14
 - 非個別管理, 14
- 使用終了, 46
- 値, 13
- 定義, 86
- 予約, 44
- モデル, 23, 14
 - コンピュータ, 54
- ポートフォリオ品目, 27
 - 作成, 28

- 単位, 28
- 定義, 86
- ロット
 - 一括管理, 14
 - 作成, 33
 - 単位, 28
 - 定義, 87
 - 分割, 35
- ロットの単位, 28
- ロットの分割 (ウィザード), 36
- 割当, 89
- 管理タイプ, 88
- 管理条件, 88
- 契約
 - 資産, 46
 - 取得方法, 40
- 減価償却, 41
- 固定資産, 41
- 在庫, 48
 - 管理, 50
 - 規則, 48
 - 再発注レベル - 必要条件, 48
 - 再発注依頼, 49
 - 再発注制限のチェック - 頻度, 49
 - 使用可能品目, 49
 - 資産の予約, 46
 - 資産 - 在庫からの出庫, 51
 - 定義, 89
 - 品目の追加, 50
- 作業指示, 69
 - サイクル, 71
 - ステータス, 72
 - タイプ, 70
 - トラッキング, 72
 - 管理, 73
 - 自動処理, 72
- 作業順序 (フィールド), 70
- 残存価額 (フィールド), 42
- 資産, 29, 15
 - (参考 コンピュータの標準セット)
 - オーバーフローテーブル, 17
 - コスト, 41
 - 契約, 46
 - 個別管理, 14
 - 固定資産, 41
- 在庫, 51
- 財務情報のトラッキング, 39
- 取得契約, 40
- 取得方法, 39
 - 定義, 87
- 資産のコスト, 41
- 消耗品, 38
 - 定義, 88
- 数量, 89
- 接続, 57
 - コンピュータ, 60
 - ポート, 58
 - 管理, 63
 - 作成, 60, 58
 - 削除, 63
 - 影響, 64
 - 数, 63
 - 必要条件, 58
- 属性, 21, 14
 - コンピュータ, 53
 - ポートフォリオ品目, 25
 - 作成, 26, 21
 - 定義, 85
 - 動作オプション, 22
 - 例, 26
- 単位, 28
 - 作成, 28
 - 表示, 29
- 調整, 75-83
 - 調整項目, 75
 - 例, 79
- 調整項目
 - ターゲット項目, 75
 - フィールド調整をトリガするリンク, 79
 - モデル, 78
 - 作成, 79
 - 使用, 77
 - 調整タイプ, 78
- 電話機, 65-68
 - オーバーフローテーブル, 18
 - キー, 67
 - テーブル, 65
 - 管理, 66
 - 機能, 65
 - 追加, 67

作成, 67

A

AssetCenter Server

在庫, 48

I

ITポートフォリオ

(参考 コンピュータ)

(参考 コンピュータの標準セット)

(参考 接続)

